

文協甲府



金櫻神社 拝殿

～ 目 次 ～

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| ◇発行のことば 会長 樋口 雄一 …… 2 | ・展示・発表の部 …… 27～37 |
| ◇甲府市教育委員会 教育長 松田 昌樹 … 3 | ・開幕式・表彰式・受賞作品展 …… 38 |
| ◇副会長 …… 3 | ◇事務局から …… 39 |
| ◇専門部から …… 4～9 | ・令和7年度定期総会 …… 39 |
| ◇地区文協から …… 9～17 | ・文化講演会 …… 39 |
| ◇第51回 甲府市民文化祭 …… 18～38 | ◇甲府市文化協会 顧問・役員氏名 …… 40 |
| ・特別出品 …… 20 | ◇あとがき …… 40 |
| ・文化祭賞・文化祭奨励賞 …… 21～26 | |

銘【紡】つむぐ

甲府市文化協会

会長 樋口 雄一



私は、今年一年の想いを表す漢字を「紡(つむぐ)」としました。本年は、明るい未来を「紡」いでいく、新たなまちづくりを本格的にスタートする年にしたいとの思いから、「紡(つむぐ)」としたところであります。

「紡(つむぐ)」は、糸を紡いで布を織り上げる際に使用され、人と人、過去と未来を結び合わせ、新しい価値を生み出す姿をイメージできる漢字であります。

子どもたちの夢や市民の絆、まちの活力、自然の恵みなど、これまで高めてきた「人」「まち」「自然」それぞれの力を「紡」ぎ、未来を切り拓く力に変えていくことで、甲府のまちは更に発展すると考えております。

人と人、過去と未来、地域の力を結び合わせ、甲府のまちに新たな価値を生み出す——私はその想いで、誰もが幸せを実感できる未来を紡いでいきます。

発行のことば

少しずつ暖かくなり春らしさが感じられる季節となりました。

平素より、甲府市文化協会の役員をはじめ、会員の皆様方におかれましては、本協会の円滑な運営並びに本市の文化振興に多大なご尽力を賜り、改めて深い敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、昨年の第五十一回甲府市民文化祭は、「つなごろう つなげていこう 文化の和」をテーマに掲げ、日ごろ研さんされた様々な活動の成果が披露されました。

展示部門では、専門部の八部門に、青少年作品や高校生の作品を加えた十部門で、創造性あふれる作品展示が行われ、発表部門では、専門部の九部門や地区文協の部のほか、高校生・大学生の部など、十二部門で個性あふれる魅力的な発表を披露いただくなど、大変充実した文化祭となりました。

特に、発表部門の「地区文協の部フラダンス」におきましては、各地区文化協会などから、十九団体にこ出

演いただき、これまでの練習の成果をいかに発揮され、会場を大いに盛り上げていただくとともに、ご来場の皆様方に、フラダンスの魅力をご堪能いただけたことと存じます。

この度、会員の皆様から寄せられました、一年間の文化芸術活動等をまとめた機関誌『文協甲府 第四十七号』を発行する運びとなりました。

皆様には、これからの文化活動を推進していく上で、ご活用いただければ幸いに存じます。

今後におきましても、文化芸術活動を通じて、市民間交流を深め、本市の重層的で多様な歴史や伝統、文化を次世代に引き継いでいけるよう、鋭意取り組んでまいりますので、引き続きお力添えを賜りますようお願いいたします。

結びに、本市文化芸術の更なる発展を願いますとともに、会員の皆様のおますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げます。発行のことばいたします。

「文協甲府」発刊に寄せて



甲府市教育委員会

教育長 松田昌樹

甲府盆地に春の彩りが広がり、穏やかな季節の訪れを感じる頃となりました。甲府市文化協会並びに関係各位の皆様には、日ごろより甲府市の文化芸術の振興に多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

「五十一回甲府市民文化祭」は、「つなごろう つなげていこう 文化の和」をテーマに、皆様のご尽力のもと、盛況裡に幕を閉じました。展示作品や舞台発表では、参加者の皆様の情熱と卓越した技量がいかんなく発揮され、甲府の文化芸術の豊かさを改めて実感する機会となりました。また、地域文化の振興と世代を超えた文化の継承がこれからのまちづくりにとって大変重要であることを深く感じたところであります。

令和八年度に、甲府市文化協会は創立五十周年という節目を迎えます。昭和、平成、そして令和と続く時代の流れの中で、

甲府の文化は揺るぎない基盤を築きつつ、絶えず変化する社会において新たな価値を創造し続けてまいりました。このたび発刊される『文協甲府』は、その歩みと成果を後世に伝える貴重な記録であり、未来への希望を示す一冊となるものと存じます。甲府市教育委員会といたしましても、文化芸術が地域の絆を深め、人々の心に豊かさをもたらす重要な役割を担っていることを強く認識し、皆様とともにその継承と発展に取り組んでまいります。未来を担う次世代に向けて、文化の灯を絶やすことなく繋いでいくため、引き続き支援を惜しまぬ所存です。

結びに、『文協甲府』の発刊にあたり多大なるご尽力をいただきました編集委員の皆様には、深甚なる敬意と感謝の意を申し上げますとともに、甲府市文化協会のますますのご発展を心より祈念し、発刊に際しての祝辞とさせていただきます。

文化芸術に引退はない



甲府市文化協会

副会長 原野五郎

今年度も甲府市民文化祭を盛會に開催することができました。展示、発表の両部門とも充実したものであり、市民の皆様には楽しんでいただけたと思います。また、地区文化協会におきましても、それぞれの地域に密着した特色ある文化祭が開催されたことと思います。市民憲章にある「文化のまちづくり」が前進したものと、会員の皆様に感謝申し上げます。

文化芸術は、日々の生活に潤いを与えてくれます。また、健康寿命も伸ばしてくれます。更に明るく豊かな地域づくりにも欠かせないものであります。しかしながら、最近では会員の減少が急速に進み、こうした活動に支障を来しているところもあります。

これは、高齢化やコロナの影響ばかりではありません。勿論文化芸術の関心が薄れた訳でもありません。それは現在の働

き方が変化しているところにあるように思います。深刻な人手不足により、六十代では定年退職後も勤務延長等で仕事を止めることができないのが実情です。私たちの文化活動もこうした社会の変化に対応していく必要があると思います。

文化芸術は何歳からでも始めることができます。これからは、仕事が一段落した七十代の方々に気軽に文化活動に挑戦していただけるような工夫をしていくことが求められていると思います。そして八十年代、九十年代の皆様には、現在の活動にますます磨きをかけていただくことも大切なことです。

今や「人生二〇〇年時代」は、遠い目標ではありません。文化協会から実践していこうではありませんか。文化芸術に引退はありません。一生が現役であります。

専門部から

直心の交わり

茶道部

笠井公巳

先日放映されたNHKの番組の中で、表千家家元、猶有斎千宗左宗匠が語られたのが「直心（じきしん）の交わり」。これは茶道の祖、千利休が説いた茶道の教えの一つであり、亭主と客、互いが互いの立場を尊重し合い心を通わせることとお話しされました。

亭主は招く客に対し心をつくして準備をし、客はその亭主の心を汲み取る。まさに一期一会のひと時を互いの心の交わりで他に代えがたいものとする大切な教えです。

私たちは日ごろの稽古の中でこの心にすこしでも近づけるように精進しているのですが、ではこれは茶室の中だけで成り立つことなのか…。

実は日常生活の中でこそ実践されるべき本来の人間関係

の在り方を示す言葉なのではないでしょうか。

甲府市文化協会茶道部門には様々な流派が集い協力し合い甲府市の文化の普及向上に努めています。流派にはそれぞれ形があり、独自の教えがありますので、目に見えるところでの差異はおのずと生じるわけですが、根底にある「直心の交わり」は茶道を志すものであれば普通の教えであることは言わずもがな…であります。

□□十禍を経験したからこそ私たちは同じ空間、時間を共有することの大切さを改めて実感しました。このようにお茶を楽しむ環境が戻ってきたからこそ、互いを尊重し合うことでさらに大きな茶道の流れを示していく時なのではないかと感じるこのごろです。



謡曲で宣伝!?

能楽部

佐藤眞弓

「鶉飼」は甲府市の隣、石和町の笛吹川（石和川）で行われていた徒歩鶉の鶉匠の話が元で、榎並左衛門五郎が作った能を世阿弥が改作したものです。

密漁の罪で地獄に落とされた漁師が浄土に上げられるよう、華経の文字を一文字ずつ書き、川に流します。それを知った閻魔大王のお心が動き、僧の願いが成就、漁師は地獄から浄土に上がった、という内容です。僧の名は明かされていませんが、日蓮説もあるそうです。



一字一石の経石
(やまなし観光推進機構ホームページより)

石和町の鶉飼山遠妙寺には「鶉飼」の謡が度々奉納されたという記録が残されており、また、その石の一つと言われるものが、現在でも祀られています。「鶉飼」には、仏教の力を広く知らしめたいという思いも込められていたようで、謡曲の宣伝的な役割を垣間見ることができそうです。

舞踊と私

舞踊部

梅田由美

私が舞踊を始めたのは、だいぶ前のことでした。仕事関連のこともあり、踊る間、曲を知るために、ただ習っているという月日を過ごしてきました。

今年の夏は、師匠と共に子ども教室にて、教えるという立場になりました。まず手本となる様に自分も踊りを覚える。今まで一度も日舞をしたことのない子どもに一連の流れ、所作を教える。三日間という少ない日数で、どこまで子どもたちが覚えられるのか。同じ動作を何度も繰り返す。見よう見まねで踊る子どもたち。嫌々でもやる子ども。難しい所作も発表会では、大きな間違いもなく踊る姿を

見て、成長する姿を実感しました。人に教えるということとはとても難しく、私もこの経験を通して成長できました。

今年は、夏から人前で踊る機会にめぐまれ「感動しました」とのお声がけをいただき、お稽古を続けてきて良かったです。舞踊は、背中、指先、所作の至るところに神経をめぐらせまます。そこに気を配り、この先も続けられる限り日舞に専念します。

師匠、元気に過ごして未熟な私にいろいろな踊り、所作を教えてください。踊る機会がある限り踊っていきます。



「青」の世代への期待

邦楽部

鈴木萌勢

今年度の邦楽部発表は十一月九日、あいにくの小雨の中開催されました。大正琴の部

が六団体、邦楽の部は十団体が演奏いたしました。

会員の減少が懸念される中で、箏曲・長唄・尺八の邦楽の部に限り、小学生から高校生の出演の割合が増加していることは特筆すべき点であると思います。学生にとつて学校以外での趣味や文化活動は本人の時間のやり繰りに加え、保護者の理解も必要です。その限られた中で年々上達し、舞台上で堂々と練習の成果を發揮できるまで成長している姿に希望を感じています。

箏曲に関していえば、箏を弾き、唄い、さらには三味線も含め習得したい伝統文化です。卒業後の在籍が課題となりますが、この先も趣味として楽しみ、良い演奏を聴くことで憧れを持ち、それを原動力として文化の継承を担ってくださることを願っています。

伝統文化の伝承は「老壮青」という三世代が相互に織りなしていくことでなされる、と信じております。そのためには当協会をはじめ甲府市教育委員会、小・中学校などとも連携し「青」の世代の育成と、会員増加を視野に入れた取り組みや活動ができればと考えて

います。



文化祭を終えて

民謡部

内藤 和子

今年の夏は猛暑の連日でした。今は周囲の山々は紅葉の季節を迎え、富士山や南アルプスの山々は雪化粧に変化してきました。

十一月十五日、甲府市民文化祭が開催されました。この文化祭が、今年最後の発表機会となりました。

私は、日本民謡「杉の会」に入部しています。毎年一月、春

と秋の発表会に向けての合唱曲と個人の課題曲を選曲し、約一年かけて練習に取り組みます。発表会では、会場に観覧に来てくださるお客様に満足していただけよう、一人一人が日ごろの練習の成果が出せるようにお稽古に取り組みます。以前は、私たち「杉の会」の会員も二十名ほどでしたが、現在は高齢や体調不良ということで八名程に減少してしまいました。少数ですが会員が一人丸となり、元気な姿で民謡の魅力をお伝えできたらと思っています。



「伝える」と「楽しむ」

洋舞部

成澤 千香子

世間では「文化芸術」と一つのワードで括られ同語として扱われる「文化」と「芸術」は似ていて非なるもの、と何時しか考える様になってきた。

私たちがこの甲府という地方で、次代を担う若者たちに何を伝えていくのか。それは類まれなる芸術家を目指すように教えるのか、それとも文化を継承することを伝えるのか。

洋舞界では昨今コンクール志向が高まり、日本全国で毎週のようにコンクールが行われている。

今年、コンクール予選の審査員を受け、真摯に取り組む子どもたちを目の当たりにした時のことだ。予選では、基礎の審査をレオタードだけで受けるため、肢体の美しさやテクニクの正確さなど全てが分かる。各地の予選会を通過してきたにもかかわらず、そのどちらにも首を傾げていた中、次の審査では衣裳をつけ、長い時間をかけて練習を重ねてきた一曲を踊る。途端に笑顔で舞台上に立ち、テクニクが完成された踊

りを披露することに、いささかギャップを感じた。

クラシックバレエは舞台芸術であり、そこには伝統と格式があつてのことと思う私にとつて、「コンクール」のための一曲だけを日夜練習をすることが大きな疑問として残った。

日々生徒に向き合い「習い事」を教える私たちが、何を「伝える」のか、今一度考えてみたい。

初夏の飛騨高山で研修

華道部

赤井 一礼

華道部主要行事の一つである見学研修旅行が、令和七年六月二十一日に行われました。向かった先は飛騨高山。山間の美しい緑の樹々を眺めながら安房トンネルを抜け高山市内に到着。有名な朝市や古い町並みなど市内散策を満喫しました。

高山陣屋や保存されている古い町並みの景色は趣深く、皆さん各所で記念撮影をしていました。老舗旅館で豪華・飛騨牛付き会席に舌鼓を打った後は、高山美術館を見学。エミール・ガレを中心とした世界中から集められたオール・ヌーボー、

アール・デコ作品に見入りまし
た。特に色とりどりの花瓶が多
く、「この作品に花を活けると
したら何が良いだろう」と華道
部ならではの会話も弾みまし
た。

日ごろ、それぞれの流派・地
区で活動しているため、この見
学研修旅行は会員の多くが顔
を合わせる絶好の機会です。年
齢、花に携わっている年月や住
んでいる地域など様々な違い
がありますが、一日を共に過ご
すうちに、やはり「花好き」同
士は打ち解けるもの。今年もあ
ちこちで新しい「花友たち」が
誕生していました。

市民文化祭を終えて

工芸部

大久保 明 美

秋も深まり、師走の声も聞こ
えるこのごろです。

文化祭では皆様のご協力の
おかげで、無事文化祭を終える
ことができ、ありがとうございました。

今年は、三団体が退会されて、
作品の展示状況を心配してお
りましたが、深い見識や特徴を
独自の視線で活かした作品が
多数制作され、今年も見ごたえ
のある作品展示となりました。
来展者の方々からもお褒め
の言葉をいただき、嬉しさとホ
ットした気持ちと、また来年頑
張ろうと思う気持ちになりました。

昨今、スマートフォン普及に
より生活様式も変化し、瞬時に
情報にアクセスでき、広く共有
できるようになりました。その
反面、思考ということがあまり
重視されなくなってきたり、
様な気がします。

常に変化してゆく暮らしの中
で、様々な要素をもつ工芸は、
ものづくりから、考えて実践す
ることの楽しさ、驚き、発見に、
新しい価値観を見出すことが

できると思います。その素晴ら
しい物づくりの心を次世代に
つなげるためにも多角的視線
で仲間づくりの心がけていき
たいと思っています。

心豊かなより良い生活にな
るよう、又、芸術文化の発展の
ため、会員一同一層の努力をし
ていきたいと思っています。



旅する蝶

浅黄斑(アサギマダラ)

写真部

小林 敬子

写真を撮り始めたころ、アゲハ蝶
が卵から孵化し羽化するまで
を毎日のように追いかけてま
した。写真を撮る始めなければ、こん
な小さな世界に興味をもつこ
とはなかったと思います。

掲載した写真は長野県富士



見高原で撮影したアサギマダ
ラという蝶です。アサギマダラ
はツバメと同じように「渡り」
をします。春から夏にかけて涼
しい場所を求めて、次の世代を
残しながら本州北部や標高の
高い高原へ向かいます。秋にな
ると寒さを避けるため、九州、
沖縄、さらには台湾などに移動
します。

外見は羽を広げると幅が十
センチほどになる大型の蝶で、
名前の由来となる浅葱(あさ
ぎ)色の淡い青色と、黒い網目
で作られるマダラ模様の特徴
です。

食草は多年草の植物である
藤袴(フジバカマ)を好みま
す。アサギマダラはフジバカマ、
スナピキソウ、ヨツバヒヨドリ
など特定の花から蜜を吸いま
す。これらの植物には、オスが

メスを誘うために欠かせない
フェロモンの材料となる物質
が含まれているようです。オス
は、そうした特定の花の開花前
線を追いかけて旅をするので
す。

芸術の秋

書道部

矢崎 美 咲

市民文化祭書道展に続けて、
甲府市民文化祭が十月三十一
日飾り付けで、十一月一日、二
日、三日に展示部門が開催され
ました。地区公民館祭りも各地
で実施されています。まさに芸
術の秋です。

市民文化祭では、美術、書、
写真、文学、工芸、水石や盆栽
など一堂に会され、鑑賞でき、
得をした気分になります。

書道部は今年専門部六十七
名、地区文化協会五十八名、計
一二五名で、昨年とほぼ同数の
参加でした。東地区文化協会は、
十名の参加と増えました。作品
や名票もきれいに展示されま
した。

当番をしている時、こんなこ
とを聞かせてくれました。「作
品を見ていくとだんだん引き
込まれるように楽しくなって

くる。見終わりに帰る時は何かワクワクした気持ちになった」と笑顔でした。また他区市町村の方も来場くださり、私も久しぶりの同級生と懐かしく楽しい時を過ごしました。

町内を散歩していると、筆文字の看板、表札、また菓子袋や箸入れなど、書で書かれたものなどに見入ってしまいます。デジタル化が進む中、手書きの文字は人となりが表れ、心の温かさを感じます。

さて、次回はどんな作品にしましょう。



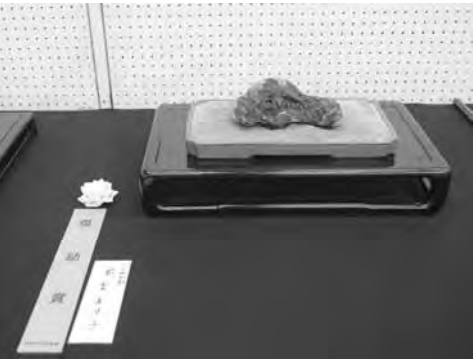
愛でる愉しみを

水石部

大野 浩 伸

第五十一回市民文化祭も皆

さまのご協力により無事に終わりました。本年度は文化祭賞に該当する作品がなく奨励賞のみとなりましたが、受賞された須賀様の作品も八海山石のヌレ・景色・道具とのバランスも良く素晴らしいものでした。昨今のネット社会のスピード・デジタル化とは真逆の日本文化は、日本人にとつとても大事だと思えます。様々な日本文化を知り、触れることで、ものの見方が変化していきます。年齢問わず多くの人が愛でて愉しむことで、自身の心も寛大になり、広く繋がっていくことを願っています。私もまだまだ勉強中ですがこれからも精進してまいります。



甲府市民文化祭に寄せて

美術部

松七五三 美和

令和七年度文化祭テーマ「つながろう つなげていこう文化の和」に沿い、展示美術部門が無事に終えたことを喜びに思っております。

美術部門は昨年より七十五名と増え、油絵、日本画、水彩、版画、切り絵、押し花絵、水墨画と、様々な作品の説明や彩色制作活動ができて楽しむことができました。

今回、新たな部門で銅版画が文化祭賞に選出され、繊細で高度な技術が話題となり、日ごろの努力が成果として認められたと思います。

絵画は孤独な作業ですが、描き、発表することが原動力となり、アリーナの中での対話、評価などの三日間は開拓への道標と実感し、盛り上がり過ぎて、声を張り、笑いが騒がしく思われた点もあるくらい、快活にできました。専門部会員と地区会員のご支援、事務局のご協力を得て、充実した展示を実施できたことに感謝申し上げます。展示出品した後、寂しくもお二人の方が急の病気のため、文

化祭に参加できて安心したという言葉を残してお亡くなりになりました。心象的な絵画は忘れられません。

「セザンヌの描(えが)きじろいを 思えども すこやかに笑(え)む この良き友や」



合唱団の足音

文学部

河野 一郎

私の取り組んでいる文化活動は、文学と音楽です。文学は俳句、音楽は合唱です。俳句については、以前にも書かせていただきましたので、ここでは合唱団の活動を紹介させていただきます。

高田三郎の合唱組曲「内なる遠さ」は、私が初めて合唱団に入って歌った曲です。昭和五十九年、二十歳の時。この体験ですっかり合唱の魅力にはまってしまった私に、合唱団「権」で歌ってみませんかとの誘いがあり、早速入団しました。昭和六十一年のことです。あれから、三十九年。この間、「権」では隔年に一度コンサートを開催してきました。次の演奏会は、四十周年記念コンサートと銘打って令和九年に行う予定です。今から楽しみでワクワクしています。

また、「権」の活動と並行して、平成八年に初めて県民第九に参加しました。その後、平成二十六年、令和元年、令和五年、六年と出演し、計九回歌ったこととなります。令和五年の第九は、ウクライナ・フィルとの共演であり、一生忘れがたい経験となりました。

さらには、令和元年に「甲府メサイア合唱団」の団員となり、バッハのミサ曲口短調やヘンデルのオラトリオ「メサイア」等の宗教曲に取り組んでいます。これまでに、令和四年の十一月に口短調ミサの合唱部分のコンサート及び令和五年・七

年のメサイア全曲公演を経験しました。令和五年度からは、市の文化協会に加盟し、発表させていただいています。現在は、バッハのカンタータを練習中であり、着実に力を付けていければいいなと希望しています。

春蘭の猛暑対策について

盆栽部

有賀 裕治

今年は、甲府盆地でも猛暑が続き、春蘭を育てていく私にとってもつらい日々となりました。春蘭は、夜間の最低温度が二十五度を超えると、成長が止まり休眠状態となってしまいます。

また、増えた害虫の被害に対しても殺虫剤の散布は例年通りの千倍の倍率では葉害が出ることを鑑み、一千倍に薄め、また鉢が少しでも冷たくなるよう、冷やした水を与えるなど



注意を払いました。

その甲斐あって、新芽も腐ることなく成長し、霞の花が文化祭賞を受賞することができました。

来年以降もますます猛暑が続くと思われませんが、多くの春蘭を上手に管理して、展示できるように努力していきたいと思っています。

子供が主役の舞台劇

演劇部

甲府放送児童劇団

甲府放送児童劇団は、劇を通して豊かな心を育み、表現力を高めていくことを目的としています。舞台劇や朗読劇を通して、登場人物の気持ちを想像したり、登場人物と自分の体験を重ね合わせたりして、思いやりの心を育んでいきます。

現在も甲府放送児童劇団には、劇の好きな児童・生徒が集まっており、男女、学校、年齢など関係なくひとつの目標に向かって楽しく活動しています。お兄さんやお姉さんが下学年の児童に教えたり、学校のことを情報交換したりするなど、劇だけではなく友達関係も築いています。「劇が好き！」と



いう人ももちろん、「人前に出るのは苦手かな」と思っている人も、劇を通して新たな自分を発見しています。

現代は、グローバル化や情報化など社会の急激な変化に伴い、社会の課題は高度化、複雑化しています。そのような課題に対応するために、未来を担う子どもたちには、自ら考える力や表現力、豊かな心が必要となります。

舞台劇では、「登場人物の思いや情景をいかに理解し、どのように表現するのか」を自ら考え、それを豊かに表現することが求められます。今後も「子どもが主役の舞台劇」を一番に据え、子どもたちと「想像し、考える努力」を積み重ねて、舞台での思いをお客さんに伝えていけるよう努めていくととも

に、劇を心から楽しむ時間を過ごしていきたいと願っています。

文化祭を終えて

合唱部

岡田 恭子

今年の甲府市民文化祭のテーマは「つながろう つなげよう 文化の和」でした。

「つながる」「つなげていく」ということに思いを巡らしてみました。

合唱部に所属している団体は、それぞれ特徴があります。人数が数人の合唱団もあれば三十人という団体もあります。また、コンクールに出場したり演奏会を行ったり、施設訪問をして歌ったりして発表の場をもっている団体もあります。取り組んでいる楽曲もポピュラー、宗教曲、ゴスペルなど多彩です。今年は、二十三団体が文化祭に参加しました。

合唱部では、各団体から一、二名の実行委員により文化祭を運営します。受付、会場、ステージ、練習室のタイムキーパー、アナウンスなど、出演者であり裏方であり忙しい一日です。いつもはそれぞれで活動し

ている実行委員一人一人が、文化祭の運営のために、素敵な音楽のひと時を創るためにつながります。また、発表を通して演奏者と会場のお客様がつながります。文化祭はつながりを創る場、時なのだと思えて感じたい次第です。

「つなげていく」ということで一つ紹介したいことがあります。昨年文化祭五十回を記念した特別企画で、合唱部は有志により「遙かなる時を超えて」の演奏を行いました。それを契機に、今年は甲府市交響楽団の演奏会で、「遙かなる時を超



第五十回甲府市民文化祭特別企画「甲府の春夏秋冬」より

えて」の合唱とオーケストラとの共演が実現しました。甲府市の文化の和（輪）がつながり、ひろがっていく出来事だったと思います。

音の和、人の和

合奏部

岡村孝子

文化をはぐくむには豊かさゆとり、そして健康が必要です。昨今日本人は長寿で豊かになり、趣味に打ち込む方が多くなりました。とても素晴らしいことと思います。

私はフルートを専門に関わってきましたが、人と合わせる楽しさを感じ、それを同じように感じてくれる人が多くなると良いなと思い、アンサンブルを勧めています。

音を合わせるためには、よく聴くことが大事です。周りの音への気遣いや、自分が旋律以外の伴奏などに回っているときは、旋律を演奏する人が歌いやすくするにはどう吹けばよいか考えながら、なおかつ、よく、耳を澄まして演奏してほしいと願います。自分の演奏だけに夢中になっては周りとの合いません。自分のことができてい

て、さらに人と合わせる余裕もなければなりません。アンサンブルは音の和、人との和が得られます。楽しさも喜びも共有できます。音楽を通して楽しい時間が長く続くようこれからも関わりたいと願っています。



執行部に参加して

吟剣詩舞道部

宮川嘉杏

私は、今年初めて吟剣詩舞道部執行部の会計担当を仰せつかりました。未熟な私を執行部へ参加させていただき、恐縮するとともに期待に添わなければという重圧を感じております。

さて、吟剣詩舞道部も会員の減少と高齢化が課題となって

おりますが、それぞれの会派は活発に活動し、落ち込んだ雰囲気はありません。

一般の方には、詩吟が難しいものと感じられているようです。反面、文芸としては、短歌、俳句等が大きく新聞等に掲載され、創作活動をされている人の数は多く、大変活発と感じています。

吟剣詩舞道部も古歌ばかりではなく、関係者の理解をいただいで、市民文化祭の短歌・俳句の優秀作品の朗詠を舞台で披露すれば、作者との連携も図られ、吟剣詩舞道の活性化につながる一策ではないかと考えますが、どうでしょうか。

いろいろな試みに挑戦し、一般の方々に理解しやすく、興味深いものだと思っております。深く努力が必要と考えています。



地区文協から

文化祭を終えて

里垣地区

廣野映子

里垣の歴史は明治八年、里垣村が誕生し、現（いま）に繋がっております。その経緯を概括的に捉えて「里垣の文化をみんな繋げよう」をテーマに、去る十月十九日（日）、里垣悠遊館におきまして、第四十四回文化祭を盛大に開催いたしました。ひとえに、日ごろから文化活動に情熱を注いでこられた地域の皆様、そして文化祭の開催にご協賛・ご尽力いただいた関係者の皆様のおかげであり、深く感謝申し上げます。

当日は、展示部門、演出部門など、多岐にわたる企画を実施し、会場は一年間の活動成果とした見応えのある展示、堂々とした聞き応えのある発表に訪れた方々は熱心に作品を鑑賞し、発表に喝采を送ったりと、終日びっしりの人で賑わい、子

どもから大人まで笑顔で楽しむ良き交流の場となりました。まさに「甲府市の歌」の歌詞通り、希望ある里垣、夢を呼ぶ里垣、明日を呼ぶ里垣であったと、地域の文化度を高め、繋がりを深めることができたと感じております。

文化祭を通じて、今後も発展のある地域の文化協会としていきたいと思っております。

活気ある文化祭への取組

貢川地区

安部龍太

近年地区文化祭を開催するにあたり、いくつかの残念な傾向が見られている。①少子化の影響もあるかもしれないが、コロナ禍を経て、小中学生の団体での舞台発表が見られなくなったこと、②従前舞台発表をされていた団体の高齢化と団体の構成員の減少もあり、舞台

発表の数が減ってきているこ

と、展示部門においても、作品の運搬に支障を来すようになり出品数が減ってきていることが上げられる。これらの対策として、①同じ趣味をもつ者が同じ地区内で集められない状況にもなっていると感じたことから、地区文化協会の常任理事会を開き、必ずしも出演者全員が当地区でなくても文化祭に出演できるようにした。このことにより、発表の演目が増えた。②現在活動している団体のメンバー募集を組回覧で呼びかけることにより、大正琴、フオークダンスにおいて新たな仲間が増えた。③まずは文化祭に参加していただき、楽しんでもらうために、文化祭において新たな催しを行った。ひとつは、箏の生演奏を聴きながら茶を楽しめる「茶室」、もうひとつは、写真部主導による「記念写真会」である。二つの催しとも好評のうちに終ることができた。

らうことを期待している。

マーガレットの香り
貢川地区 美術部
渡邊 正子



また、将来の文化活動への礎になるよう、貢川沿いの「芸術の径」に貢川小学校六年生の俳句作品を掲示する。これにより、多く訪れた方々が、貢川地区ならではの文化の香りに触れた憩いのひとときを過ごしても

屋の暗さに馴染むようにやさしく描き直しました。これからも花の気持ちになつて、描きたいと思います。

高齢化社会における文化協会の役割

千塚地区
河野 一正



わが国では少子高齢化社会が進むにつれて労働者人口が少なくなつてきています。よつて我々高齢者は健康で病気になるまい、しかもいつまでも働くことのできる体を作る必要があります。さもなければ今後の日本は働き手不足と共に医療費が増え、日本の財政に深刻な問題が起きる可能性があります。

この絵を描き終わった時、突然、昔のことが走馬灯のように思い浮かんできました。絵のバックを三段にして、部

身体と心の健康がありますが、身体は健康はスポーツ協会の問題ですので、ここでは取り上げません。

心の健康に関して大事なことは、人生を楽しむものにするということ。一日中何もしないでただ無駄に日々を過ごすのは全くつまらない人生となります。そこで、我々は何か夢中になれる物を見つければいいと思います。その答えは趣味をもつことだと思えます。趣味に没頭し、そこに楽しみを見つけて出すことが人生を豊かに充実したものになるからです。

私の趣味は囲碁です。囲碁は二人で争うゲームなので、勝とうとする闘争心が起き、脳が活性化される利点があります。また一人で手筋や定石を研究することもできます。しかも囲碁の良い点は棋力の差があつてもハンディを付けることにより誰でも対戦できます。

私たち高齢者は努力しても、記憶力が低下しているため余り強くはなれませんが、私は少しでも強くなりたいと願ひ努力を続けています。



暑さに負けず

創意工夫の二〇二五年

相川地区
川崎 靖

新体制二年目の執行部に新たに加わったメンバーが文化財の仕事をしているため、年に二回ほど相川地区文化協会の理事会後に講習会をしてもらおうと計画し、早速六月の理事会のあと「甲府城と城下町」という名で講習会を開き甲府城の石垣について学びました。講習会も非常に好評だったため次回も期待できそうです。

専門部の俳句・短歌部が今年から俳句、短歌、川柳部となりました。教養部の研修会は六月に千葉県成田山新勝寺に三十



二名で行ってきました。今年も
天気にも恵まれ良い研修になっ
たと思います。

昨年課題となっていた花形
不在の件ですが、十月の地区文
化祭において、相変わらず、学
生の出演等はありませんでし
た。しかし、熟年バンドも出演
するなど創意工夫を重ね満足
のゆく結果となりました。開会
式の最後に、長年務めていた
いた八田前会長に感謝状を送
らせていただいたことを報告
いたします。

アメイジング・メモリー

東地区
中田 康成

見たらびっくり聴いて納得、
大トリを歌うのはこの方です。
ナレーションの声に送られて
舞台へ、白いクジャクの羽根や
イタリヤ製の仮面でデコった
衣装に観客がどよめき、歌った
曲はアメイジング・グレイス。

東地区文化協会は十月十一
十二日に、第四十二回文化祭を
開催しました。会場は甲府・リ
ッチダイヤモンド総合市民会
館。一日目の午後から、展示部
門の一般公開。二日目には、芸
術ホールで開会式と、発表の部

を開演。

展示の部は、書道、盆栽、華
道、絵画やステンンドグラスの美
術工芸、写真、年毎にテーマを
決めての郷土研究などです。発
表の部は、民謡、詩吟、歌謡、
大正琴、着付、フラダンスです。
特別出演として、甲府商業高校
ソングリーダー部のパフォー
マンス。また、東小学校児童の
皆さんから、多くの絵画、書道
の作品を出品していただき、今
年も盛況に東地区文化祭が挙
行されました。

冒頭のアメイジング・グレイ
スは、英国の牧師ジョン・ニュ
ートンが作詞した讃美歌で、世
界中で愛されている歌です。彼
は若いころ、船乗りとして奴隷
船などの貿易商をしていて、嵐
で船が難破し九死に一生を得
た体験が転機となって牧師と
なり、生涯を奴隷解放運動に捧
げた人だそうです。今回これを
歌わせていただいたら、思いが
けず、地域の優しい観客の皆さ
んからアンコールをいただき、
とても光栄でした。

アメイジング！



文化祭を終えて

国母地区
小澤 浩

この度、第四十四回国母地区
文化協会の文化祭が、十月十八
日、十九日に南西公民館におい
て盛大に開催されました。
今年も国母小学校の児童の
皆さんから、素晴らしい絵画と
力強い書道の作品を出品して
いただきました。式典前には、
ご来賓の皆様をはじめ、会場の
皆様にはお茶席を設け、ご賞味
いただきましたが、大変好評で
した。

また、今年の講演は、「国母稲
積地蔵（甲府市指定民族有形文
化財）の探訪」と銘打って「お
地蔵様の変遷」と「紙芝居」を
もとに映像化した昔ばなしが
上映されました。

各専門部会の展示は、手芸、
工芸、洋裁、絵画、写真、俳句
等多くの作品と共に、今年度よ
り発足しました絵手紙部の作
品も展示いたしました。一般参
加者作品四十四点の出品もい
ただき、大勢の皆様にご鑑賞い
ただきました。

二日目の各部発表の部では、
日本舞踊、朗読、スクウェア・
ダンス、邦楽、合唱、フラダン
ス、そして大団円は、昨年度復

活された「国母音頭」を会場の
老若男女を問わず、和気あいあ
いのもと踊りました。そのほ
か、二階の大会議室では、囲
碁、将棋対局が行われ盛況の中
幕が降ろされました。

この文化祭を通じ、私としま
しては、様々な価値観や出会い
を体験することができ、新たな
気づきと学びを感じることが
できました。これからも国母地
区文化の発展と向上のために
努力して参りたいと思ってお
ります。

山城地区文化祭

山城地区
窪田 久美

十月二十六日、山城地区文化
祭が南都市民センターで開催
されました。来賓の方の祝辞を
いただき、来場者、出演者もホ
ールに集い、市民憲章を唱和
し、「甲府市の歌」を歌い、始ま
りました。

展示の部は、書道、皆それぞ
れ額に入れ素晴らしいもので
した。美術も、切り絵、刺繍の
絵、水彩画、日本画、絵手紙な
どたくさん展示されました。布
バック、きめこみパッチワーク、
干支短冊等、たくさん作品が

きれいに飾られました。ガーデ
ニングのバンジーもきれいに
植え込まれ、入り口に飾られま
した。

山城小学校の児童の書道、絵
画も展示されています。文学で
は短歌と俳句です。俳句は青竹
の筒に花を活け、それに俳句を
書いたユニークなものです。短
歌も十三名、それぞれの思いを
歌っています。

発表部門は何といつても舞
踊です。民謡、艶歌等、一人又
は複数の方の踊りを堪能させ
てもらいました。他に大正琴、
琴詩の朗読、合唱、詩吟、フラ
ダンス、吟詠等、多くの方々の
出演が続き、昼食を済ませて落
語を聞きました。木戸亭突破さ
んの語りはとても面白かった
です。又、詩の朗読には心惹か
れました。一人で語るのも良い
ですが、多数で語った話もよか
かったです。

日ごろの練習と努力の成果
を見せていただきありがとうございます。
発表する方も年に一度の機会
を楽しみにしていたことでし
よう。また来年も多くの方々の
特技を見たいものです。ちなみ
に私も短歌で参加しました。楽
しい一日でした。



穴切文協最後の文化祭

穴切地区

加賀美 里 芳

去る令和七年十月二十六日、第四十二回穴切地区文化祭が中央部市民センターで盛大に開催されました。

今回は、最後の文化祭ということで、会員の発表に加え、皆が楽しめるものとしてアトラクションの復活を考え、山梨落語研究会の目白亭愛狂師匠をお迎えして、落語・三味線の弾き唄いで、楽しいひと時を過ごしました。

一階ロビーには、舞鶴小児童の絵画、書道作品、甲府西中生徒の写真作品が展示され、大勢の来場者で賑わいました。これ



まで育んできた長年の締めくくりにふさわしい文化祭となりました。

文化活動は目にも見えませんが、心を豊かにし、感性を磨くには非常に大事なものであることを痛感しています。

歴史ある穴切地区文化祭が最後となり、残念ではありますが、これからも文化発展のために、微力ながら活動が続けていきたいと思っています。穴切地区の皆様、長きにわたり文化協会にご協力いただきましたありがとうございます。ありがとうございました。

地区文化祭 盛況に

玉諸地区

原 さとみ

晴天の中、玉諸小学校体育館で開催された玉諸地区文化祭。発表部門では、合唱、フラダンス、玉諸小児童の合唱、合奏、運動会への道のりの動画配信、3B体操、舞踊、大正琴、保育園児の和太鼓、箏曲、バンド演奏、マジック、詩吟と華やかな舞台になりました。

展示部門では、文学、絵画、書道、篆刻(てんこく)、写真、華道、手工芸、陶芸、盆栽、いきいきサロン、民生委員児童委員

員協議会からの作品。二十一世紀まちづくり協議会の活動記録等で体育館が彩られました。そして、郷土研究から、今回発行した「玉諸地区郷土歴史かるた」によるかるた大会を通して、改めて地域の歴史や当時の生活様式に思いを馳せました。



又、食生活改善推進委員会からは、食事による健康のための興味深いイベントも開催されました。

私も箏曲部として舞台に参加させていただきましたが、地区文化祭を通して地域との繋がりが強くなり、これからも地域を大切に、地区の一員として貢献していけたらと思います。



第三十九回

新紺屋地区文化祭

新紺屋地区

山田 厚

第三十九回になる新紺屋地区文化祭を開催しました。今回の特徴は、参加者が今までになく大人数だったことです。昼食用のおにぎりが足りなくなるほどでした。

新たな企画としては、子どもさんの空手の演武と史跡部の甲府空襲展でした。この甲府空襲展には市の歴史文化財課の協力で焼夷弾や写真パネルを展示することができました。



でも、やっぱり盛況になるのは子どもさんの出演です。空手

演武もピアノ演奏も、特に新紺屋小学校の皆さんのコーラスや合奏です。子どもさんが来てくれれば、家族の方々も来てくれて盛り上がりました。

もちろん、地区の文化祭の楽しさは、展示部門や発表部門に「〇〇さんの作品だよ」「〇〇さんの民舞の発表か」などと、地区の知り合いの登場で会場も一体となって親しめることです。

課題としては、展示部門の作品が次第に少なくなっていることです。それは、「高齢化」と「現役ゆとりの無さ」の傾向だと思えます。今後の改善課題です。

湯田地区の文化祭

湯田地区

坂本 雅哉

湯田地区の文化祭は十月十九日に、第二十七回湯田地区ふれあい祭りとしてスポーツ競技などと共に開催されました。当日天候が心配されたものの、消防団・スポーツ協会・食生活改善推進委員会・愛育会・子どもクラブなどの各種役員の皆様にご協力をいただく中で、校庭ではグラウンドゴルフ大会

や、子どもたちのためのゲーム、また北門広場では、昼食用に力しも提供され、子どもから高齢者まで多くの住民で賑わいました。

開会式では、お忙しい中を樋口甲府市長よりごあいさつをいただきました。

文化祭は新型コロナウイルスの影響で数年間に渡り開催することができず、昨年度から再開しましたが、今年は昨年度より多くの方々からの出展をいただきました。

高齢者学級からは石けん粘土の花・水彩画など、食生活改善と愛育会からはバッグなどの手芸品など、その他にも書道作品や写真など多くの作品が出品され、熱心に見入っていました。また、学校側の配慮によ



り、湯田小学校の一年生から五年生の児童の絵画や六年生の工作も展示され、多くの作品に囲まれた体育館の中ではマジックショーも行われ、子ども連れの方々にも楽しんでいただくことができました。

令和七年度朝日地区

文化祭について

朝日地区

伴 賢 二

令和七年度の朝日地区文化祭は、十一月十五日(土)・十六日(日)の両日、朝日小学校体育館で行われましたが、延べ六〇〇人以上の入場者を迎え、大盛況でした。十五日九時三十分より開会式を行った後、ステージでは十時から発表が行われ、冒頭、今や恒例となった甲府工業高校応援団の力強い「援舞」が披露され、その中で朝日地区を激励する二〇〇回以上の「朝日、朝日」が連呼され、大盛り上がりとなりました。その後「甲府市の歌・体操」、「朝日」を染め抜いた揃いの法被を着た「武田節」などの踊り、詩吟、昨年に増し洗練されたスコップ三味線、寸劇「険の母」が笑いを提供、ハーモニカ演奏、本

格的な日本舞踊、長唄と続き、午前中のトリの初参加、駿台甲府中学校ダンス部と午後冒頭の駿台中学校吹奏楽部の演奏にはアンコールの拍手が鳴りやみませんでした。いずれも六十の席では足りず、常に立ち見が出るほどで、バラエティーに富んだ出し物が参加者を楽しませました。発表は、三時まで続き、大トリの演劇「おれおれ詐欺」は観客をうならせました。最後の総踊りを出演者全員で楽しみました。

展示部門も大変充実しており、写真の部では、人物や風景、行事などの作品が十五人から三十点余り、絵画では五十号の大作やスケッチの連作、油絵、水彩、水墨画など二十余点、文学では、「短歌」「俳句」「川柳」「筆ペン」書籍展示などがありそれぞれ力作ぞろいでした。手工芸部門では二十名以上から彫刻、木彫り、編み物、洋裁、鎌倉彫、折り紙、刺繍など多彩な作品が陳列され、来場者を楽しませました。また、力作を揃えた絵手紙の展示も見事でした。六サロンが展示した「いききサロン」部門でも充実した内容が目立ち、見事なちぎり絵や井上康明先生の指導を仰ぐ「俳句」など、全体として内容

の濃い展示になったと思います。正面入り口の三本立て大輪の菊や受付正面の秋の生け花も文化祭に彩を添えました。併せて行われた「健康教室」や朝日小学校の児童の展示も大変好評でした。多忙な樋口市長に寸劇上演中、あいさつまでの間、長時間快く待っていただいたのもありがたかったです。

文化祭準備

富士川地区

菊地 健

開催直前にある団体からステージを使つてのりハールをしたいと要望が出た。それも準備開始を予定していた数時間前の昼近くに、と云う。

会場である富士川悠遊館の体育館は、六枚の折りたたみ式のステージを倉庫から出して設置する。たいした作業ではないが、腰や肩に負担が掛かる一瞬がある。我ら文協関係者は、みな足や腰や背中や肩に爆弾を抱え、金属を入れたり手術が予定されたり、通院中服薬中の者ばかりだ。

保護司として接している十九歳の若者が、事情があつて兄のアパートに塾居している。保

護観察所観察官から、「たまにドライブでも連れて行ってあげてください」と言われ、月二回の面接には県内のあちこちへ車で行く。共犯者の逆恨みを恐れて塾居する若者は、少し気が弱く優しい性格で、彼なら誰に紹介しても不安はない。会長も保護司仲間。お昼を奢り少し手当も出す条件で、手助けを求めると、即座に了承。二人でステージを設置し無事りハールを終えた。

文化祭準備には、役員の他に出品者や各町の有志、地区内にある私立学校の生徒、果ては関係会社の社員の方まで参加し、身体を勞りながら、何とか文化祭開催にこぎ着けている。肝心の文化祭内容に言及できなかつたが、今回はその一面を披露する。

甲斐の山々に思う

相生地区

雨宮 秀

十二月の初旬、市内を流れる荒川の川岸を歩くと、白根三山と八ヶ岳の峰々の輝きが目にしみる。

私は、かつて、ここから見える山々に登つてみたいと思ひ、

県内の山岳クラブに入会して、登山の技術を習った。主に地図

(二万五千分の一の地形図)の読み方や方角の測り方、登山計画の立て方や報告の仕方など、山岳遭難に備える準備と知識を習得した。そして登った。

各山にはそれぞれの思いがある。アプローチの森や集落の営みとたたずまい。谷の深くに白く落ちる滝の音。岩場の登り坂とガレ場の足さばき。そして安堵と眺望。これらが、時の流れの中に沈潜していく。

芸術の源泉になるのは富士ばかりではない。甲斐の盆地をめぐる山々もまた、人々の心を動かす源になっっているに違いない。



和気あいあいの中で

充実した活動

池田地区

佐藤 まゆみ

池田地区文化協会フラダンヌ部として、二〇二一年から、活動をしています。武田先生の指導のもとに西公民館で月三回、土曜日の十時から十一時半

まで練習を行っています。

池田地区の文化祭へは、毎年出演をしています。今年度は甲府市民文化祭で踊る機会を儲けていただき大変喜ばしく思っています。そして今年度は、甲斐市の公民館での披露、ホテルでの披露等、発表の場がたくさんありました。

こうした発表に向けては、衣装や髪飾りを新調するなどして、また土曜日の練習以外にも都合の良い日を設定し、個人練習を重ねて本番に臨んできました。年齢は、五十代から六十代、七十代、八十代と幅広く、みんな仲良く練習して和気あいあいと活動をしています。



温かかった文化祭

春日地区

柳本 タカ子

秋たけなわの十一月十六日に、「第四十回春日地区ふれあいの文化と健康まつり」が中央部市民センターで盛大に開催されました。天気も良好、大勢の方が足を運んでくれました。今回の講演は藤巻愛子さんの「聴いておくんなってむかし話を」でした。地方に伝わる昔話を甲州弁を交えながら話してくださり、皆で楽しく聞けました。展示では、西中・舞鶴小の生徒・児童の作品の逞しさや保育園の子どものさんのかわい作品、見事に咲いた洋ラン、川柳など、素敵な作品が多く展示されました。昼食は食推の栄養たっぷり豚汁とおいなりさんに皆で舌鼓を打ちました。発表部門はフラダンヌ、民踊、レクダンスと賑やかに踊りました。「春日地区の歌」は春日だけの曲、踊り継いでほしい一曲です。「マツケンサンバ」では、舞台と客席が笑顔一色になりました。盛り上げてくれた斉藤さんのエンターティナーぶりにびっくりしました。たくさん拍手と笑いの中で会場がひとつになった瞬間でした。

高齢者四人組のオカリナ演奏もありました。演奏者の中のひとり、一〇一歳の功刀まつ

奈さんです。オカリナ教室のレッスンでは、吹くのが半分、おしゃべり半分で楽しい時間を過ごしています。最近、曲は知っているものの、指が思うように動かず、自分の手をさする時も多くありました。「一緒にがんばろうね」と心の中で応援しながら吹いた「かあさんの歌」は忘れられない一曲となりました。

功刀さんは折り紙も得意で、春日地区折り紙部の講師でもあります。文化祭の終わりに春日地区文化協会の会長さんが功刀さんを皆さんに紹介し、「これからも頑張ってください」と励ました時の功刀さんの「はにかんだ、嬉しそうに顔が印象的でした。来年も元気で一緒にオカリナ演奏したいと思っています。とても温かい気持ちでふれあいまつりを終えることができました。

地区の文化活動に思う

羽黒地区

山下 知

今年も甲府市長をはじめ、地

域の学校長、県・市議員等の方々をお迎えして、第三十四回羽黒地区文化祭を開催させていただきました。

ただ、関係各位の大変なご苦労の上に行われ、発表内容も一段と磨きがかかってきたと感じさせていただきましたが、文協会員以外の方々のご来場が昨年よりも一段と少なく、これでもいいのかと大いに考えさせられるところでありました。

開催時期の問題も含めて、新しい専門部の誘導・設置など真剣に検討する必要性に迫られる思いです。

それはそれとして、各専門部の方々には今後とも日ごろから研さんを積み重ねて、心と身体健康のために楽しみながら続けていっていただきたいと願っております。

政治のために文化活動が圧迫されるような恐ろしい時代には決してならないことを祈念しつつ……。

「アイデアと愛は心のゆとりから スマホ片手の悲しさよ」



文化協会と私

甲運地区

金丸 正子

以前より趣味として色々なことをしてきました。今も続けているのが絵画です。約二十年弱ですが、もう少し早くからしていたら、後悔の念がありません。今、苦しみながらも楽しむことができ、続けられていることの幸せをつくづく思います。

最近になり、誘われて地区の文化祭に出品するようになりました。お陰様で絵を描くことだけでなく、同じ趣味の仲間もとより部門は違っても、一緒に活動している方々と出会い、刺激し合いながら交流ができることはうれしいことです。

外から眺めているだけでなく参加できることは素晴らしいことだと思います。地元の小学生の作品を見るのも楽しいものです。高齢の方々の活躍からは力をもらえます。一年間の成果を発表できる場所があることが、次への頑張りに繋がります。本年度のテーマ “つながろう つなげていこう” 文化の和 “その通り” と思います。ただ、なかなか新しい仲間が増えないことが寂しいですが、思い切った第一歩を踏み出し

てはいかがでしょうか。コロナ禍前の様な文化祭が懐かしく思い出されます。そんな日が再び来ることを願っております。

大國地区文化祭を終えて

思うこと

大國地区

青山 秀人

大國地区文化祭は、会員の高齢化などにより開催が危ぶまれましたが、会員の皆様の努力により、今年度は大國悠遊館を会場として、手づくりの文化祭を開催いたしました。

今後、引き続き文化祭を開催するならば、地域の魅力を生かしながら、世代を超えて参加できる「交流型文化祭」が望ましいと考えっております。作品展示に加え、高齢者の技術の紹介や、若い人たちの発表など多世代の参加機会を広げることや、学校、地域団体、住民との連携を強め、地域全体で支える体制づくりの構築に努める所存です。また、歴史探訪や農産物の紹介、防災、健康相談など、地域ならではの企画を取り入れ、文化祭が「大國地区の魅力再発見」と「地域づくり」に貢献する行事となるような文化祭の開催

に向け邁進したいと思っております。



第三十一回北新地区文化祭を終えて

北新地区

小林 辰男

第三十一回北新地区文化祭は、十月五日北新小学校体育館において行われました。

展示の部では、写真は自然風景が見事に捉えられ、リメイクは古布生地をエプロン衣など多様に作られ、創意と工夫の作品が並び、木彫は能舞台を思わせる般若の面がみごとに彫られ堪能できた作品の展示でした。書道は個性的で美しい文字

の作品、文学は写実的な俳句、北新小学校児童の書道作品などには微笑まじさを感じました。

発表の部では、特別出演の落語「そば清」は玄人肌、存分に楽しませていただきました。民謡舞踊は稽古によって鍛えられた日本の伝統文化ともいえる踊りが披露され、こちらも大いに楽しませていただきました。

お琴の邦楽も連弾で日ごろの研鑽が披露され、奥ゆかしさを感じさせるものでした。この他、詩吟の吟詠、朗々と読む朗読、真剣な剣舞、シンブルな横笛・篠笛の演奏なども味わい深

く、また、茶道部によるお抹茶のお点前、いただく客もおそかにいただきながらとつても楽しい文化祭でした。

新田地区文化祭を終えて

新田地区

丸 茂 千賀子

十月二十六日に行われた新田地区文化祭、今年度は『三世代で楽しむこと』を目標に、西部市民センターで開催されました。新たに幼稚園児の演目を取り入れ、会場は笑顔と歌声を楽しみました。

発表の部では、民舞や合唱に加え、新しく発足した部の演目も披露され、大勢の方々に楽しんでいただきました。講演では、音楽法話が行われ、心温まるひとときを過ごすことができました。

展示の部では、文化部の作品だけではなく、地域の幼稚園や小学校に福祉施設・いきいきサロンの皆様による作品も並び、来場者の目を楽しませてくれました。

文化祭を通じて、人と集い、笑顔いっぱい笑い、楽しみ、感動を分かち合うことで、生きる活力と明日への力をいただきました。



けたように思います。来年も多くの皆様にご協力をお願いし、誰もが楽しめる文化祭を開催したいと願っています。



「文化祭と研修会」を

開催して

中道地区

久保寺 威徳

中道地区文協第七十一回文化祭は「中道地区文化健康ふれあいまつり」の一環として十月二十六日(日)午後「健康の杜 アネシス」館内にて行われました。開会式典には樋口雄一甲府市文化協会会長の「祝辞と菊花部、山野草花木部への市長賞の授与をしていただき、続く各

部の発表と館内展示で盛り上がりました。

十一月五日(水)には昨年引き続き「会員研修会」を行い、今回は近くの「豊富郷土資料館」にて、地域の歴史や昔の暮らしの生活用品や養蚕資料の見学、そして、平安鎌倉時代の歴史を伝える「大福寺」の境内で中世の仏教文化の遺産と県指定文化財「浅利与一塔」などを見ながら文化財の理解を深めることができました。

昼食後、中道公民館にて、研修資料にそって見学のまとめと講師との質疑応答を行って会員相互の親睦と学びの良い機会となりました。今後中道地区の文化の継承と発展、会員の親睦に一層努力していき



いと思っています。

文化祭開催と今後の課題

大里地区

高橋 要

今年で五十二回目になる大里地区文化祭を十月二十六日、小雨が降る中、大里小学校体育館で開催しました。開会式には地区自治会連合会長、市議会議員を来賓としてお迎えし、甲府市文化協会長である樋口市長も文化祭の途中にお見えになりごあいさつをいただきました。

文化祭では十三の部、約百名の会員が、発表部門の部においては日ごろの練習の成果を十分に発揮し、展示部門の各部の方々も個々が持っている技術、技能を生かして作成した作品を展示しました。また、今年は大鎌田保育園児の習字と絵の展示もあり、その親御さんや地域の人たちの入場もあり大いに盛り上がりました。大里地区文化協会は昨年創立して五十五年が経過したことを記念して「創立五十五周年の今」と題した小冊子を作りました。これは各部の活動内容を紹介し、会員からの寄稿を基に

作成したのですが、これを今年五月に大里地区全戸に配布しました。これによって大里地区文化協会の存在、活動が地区の人たちにより一層理解していただけたと思っています。この効果が表れたのか、今年文化祭には一般住民の方の入場が多かったように思います。

しかし、各部とも高齢化が進んでいるのが現状です。これからも歴史と伝統のある大里地区文化協会を存続させていくために、いかに新たな会員を増やしていくかが今後の大きな課題となっています。



地域の皆さまの

交流の場を目指して

〜石田地区文化祭〜

石田地区

吉澤 一家

澄みわたる青空が広がった十一月三十日、石田小学校体育

館にて、石田地区文化祭が盛大に開催されました。

今年のテーマは「人とひとの心をつなぐ文化の輪」。このテーマのもと、展示部門には五つの専門部が、発表部門には三つの専門部が参加し、一年間の活動の成果を披露しました。また、地区の一般の皆さまからの多彩な作品も会場を彩り、訪れた多くの来場者の目を楽しませてくれました。

今年の新たな試みとして、甲府工業高校吹奏楽部の皆さまをお招きし、特別演奏会を実施しました。館内に響き渡る迫力満点のサンバのリズムや、心温まる懐かしのメロディに、会場は大きな熱気に包まれました。百名を超える来場者からは惜しみない大きな拍手が送られ、世代を超えた交流の場となりました。

世界中で「対立」や「差別」といった言葉が聞かれる今、文化活動は、まさにお互いを認め合い、尊重しあうことができる貴重な場です。石田地区文化祭は、そうした温かい「心の交流」を育むための一助となればと考えております。この文化祭を通じて、多くの皆さまが地域の絆の深さを感じていただけたら幸いです。

一方で、石田文協は創立四十周年を迎えた平成三十年には十八あつた専門部が、現在九部へと半減している現状があります。地域の文化活動を未来へつなげていくためにも、組織の見直しを含め、文化協会の今後の在り方について検討する必要性を強く感じています。次回の文化祭に向けて、より多くの人が参加し、楽しんでいただけるよう努めます。

心身若く フラダンス

伊勢・住吉地区

河野史江

私たちフラダンス部は、伊勢悠遊館にて毎週水曜日、第一、第三は武田先生にご指導していただいています。第二、第四は自主練習に励んでいます。

二十八年前、五名から始まりました。最多で二十六名の部員で和気あいあい賑やかなころもありました。今は七名の少人数ですが、五十歳代から九十歳代の部員で楽しく踊っています。

コロナ禍前は、デイサービス等の施設へ訪問したりしていました。今は、地区の夏まつり、文化祭に参加しています。今年



の第四十三回文化祭は、十月十九日に伊勢小学校体育館にて開催されました。フラダンスは華やかな衣装や舞台映えするメイクで若見え効果抜群です。音楽に合わせて体を動かすことは、脳の活性化にもなります。これからも元気で楽しくたくさんさんの活動をしていきたいと思えます。

第四十六回

地区文化祭を終えて

琢美地区

畑

晴夫

琢美地区文化祭も第四十六回目を迎え、今年も多くの方にご来場いただくことができました。今回は、発表・展示作品の募集にあたり、呼びかけを昨年より早く始めることとしま

した。展示作品も昨年より多く集まり、展示スペースを増やして対応しました。

また、発表の部の最後に、天野宣音楽事務所の代表者が当地区にお住まいとのご縁で、天野流和太鼓阿羅漢の皆様による、迫力ある生演奏を楽しませていただきました。

閉会間際まで、椅子二二〇席が満席に近い状態となり、今までになかったほど盛況のうち閉会できました。



琢美地区には素晴らしい才能や特技をお持ちの方が多数おられ、琢美地区の文化と教養の高さを再認識させられます。日ごろの成果を、文化祭を通して多くの方に見ていただき、また一年頑張ろうと思っていただければと思います。

文化を受け継ぎ、継承してよ

り良いものを次代へ繋げるこ
とが私たちの使命であると考
えており、特に園児・小学生・
中学生には展示作品のコーナ
ーがありますが、来年は、楽器
等の演奏や歌唱等の発表も加
えていきたいと思えます。学校
と協力し、芸術の素晴らしさを
伝えていければと思っていま
す。



文化祭と

オータムフェスタ

千代田地区

末木照久

今年の文化祭は、十一月二日に千代田小学校の体育館を会場に、小学校の催しチヨダオー

タムフェスタと合同で開催しました。展示品が主体となりましたが、種類・点数共に前年を超える作品が展示されました。又、今回は役員の提案により、各作品にまつわるエピソードや思いなどをコメントとして掲示したことも、作品の成立立ちなどが分かり大変好評でした。地区の皆さん、児童の皆さん、保護者の皆さんも、普段目にするのがない作品があったり、小さな発見もあつたりと喜んでいただけました。

小学校の催しも、児童の一分間スピーチ・合唱と私たちが普段接することのない演目であり、驚いたり笑ったりとこちらも楽しいひと時を過ごすことができました。

役員の皆さん、関係団体の皆さん、先生方も準備の段階から親交が深まり、地区内の今後のことにも皆さん方から意見を伺うことができました。これからも地域の中心となる文化協会として進んでいきたいと思えます。



令和七年度

第五十一回甲府市民文化祭

テーマ つながろう つなげていこう 文化の和

開催期間

令和七年十一月一日(土)～

十一月二十三日(日・祝)

開催会場

リッツダイヤモンド総合市民会館

遊亀公民館

開幕式

令和七年十一月一日(土)

午前十時

展示十部門

華道 四十二点

工芸 四十五点

写真 二十三点

書道 一二五点

水石 十七点

美術 六十七点

文学 一四二点

盆栽 十七点

高校生 三十九点

青少年作品 一三九点

発表十二部門

演劇 五十七人

合唱 四〇二人

合奏 三五八人



「私の地域・歴史探訪」
歴史探訪コーナーを設け、小冊子(甲府市内三十一地区)の展示及びビデオ上映を行いました。



☆アリーナスステージ
展示会場にて、ミニコンサートを実施しました。

開催会場

山の都アリーナ舞台

開催日

令和七年十一月一日(土)

参加部門

合奏部 五団体



☆将棋大会
甲府市文化協会会長杯
参加者数 六十五人



☆地区文協の部
フラダンス
地区文化協会が活動がさかなフラダンス部が発表しました。

開催会場

芸術ホール

開催日

令和七年十一月十六日(日)

参加部門

十九団体

☆甲府市民文化祭
文化祭賞・奨励賞
受賞作品展

開催期間

令和七年十一月二十五日(火)

十一月二十七日(木)

開催会場

甲府市役所一階市民活動室

参加部門

展示七部門(二十三点)

華道部 特別展示 一点



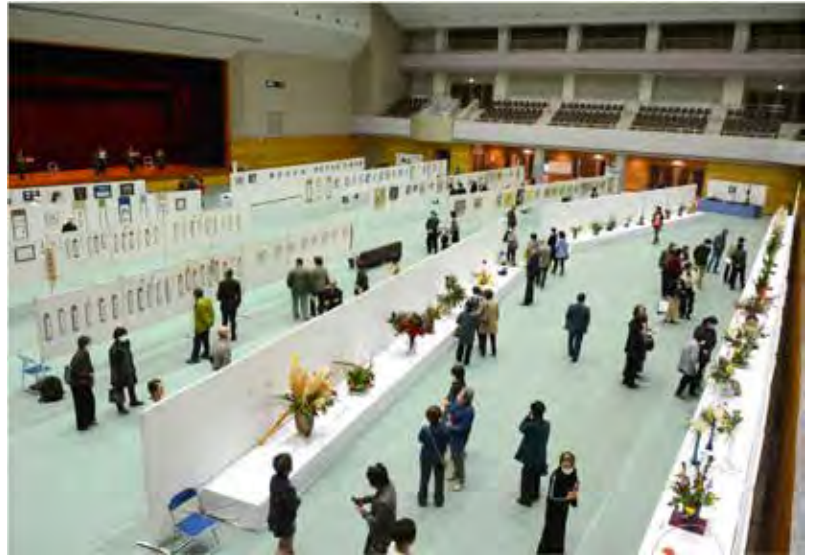
市民文化祭開催期間

出品者数 六六六人

出演者数 一六八三人

来場者数

延べ五四七三人



甲府市民文化祭実行委員会

委員長
副委員長

委員

- 山戸千藤小川日安廣末畑吉高 深相鈴飯佐石風遠岡渡 田河松七大矢広大久小 松 西山原松森数中奥矢樋
 田澤野田坂崎向部野木 澤橋(以上発表部門) 由宝萌妙真宗岳 恭政(以上展示部門) 中野五三美和 松七三美和 大矢浩美 廣久明美 小久保明美 松田昌樹(教育委員会) 田村克仁(以上文化協会) 山下五榮 原澤芳弘 松田二弘 森田徳子 数野徳子 中澤徳子 奥山幾代 矢野吼雄 樋口隆一

- 文化祭テーマ最優秀賞 大塚陽奈 (順不同)
- (盆栽) 今藤新小大井岡三古金大水石小矢中坂広保大設松河野一
 井井沼林森上部枝川井野上川川崎林本瀬坂久和保松七五三美和 郎
 (文学)短歌 "川俳句" 柳
- (美術) 康慶浩み幸則 伸強流翠咲一修美美幹和 郎
 (水石) 圭晴美幸香 初明
 (書道) 圭晴美幸香 初明
 (写真) 圭晴美幸香 初明
 (工藝) 圭晴美幸香 初明
- 文化祭賞選奨委員 河野一 郎
 委員長(文学) 河野一 郎
 副委員長(美術) 松七三 美和
 (故) 坂本尚雅 服田隆哉 立川秀茂 雨宮明彦 清田彦明 寺山義朗 青山敏朗 篠原はるみ 大久保威徳 久保威徳(以上地区文化協会) 樋田和子(文化協会) 保坂(各種団体) 飯田浩明(教育委員会) 近藤(教育委員会) 浅川(教育委員会) 河住(子ども未来部)

特別出品



産地は、南アルプスの山岳地帯の多くの支流が合流し「早川」となり、富士川に合流します。したがって、種々の石質が産出され、県内外より愛石家が探石に訪れています。

本石は、深山溪谷をはさんで、大小の双峯がバランスよく、そびえ立つ形姿は雄大です。

銘「双峯 早川産」

甲府市文化協会

会長 樋口雄一



花材 はらん

銘「伝統生花五行活」

顧問 鶴田一杏



傘寿になりました。通過点だと云う人も居ますが私の場合、そう強気でもなく、のそのそと身の周りの片付けを始めているこのごろです。

銘「傘 寿」

顧問 宮島雅展

第51回甲府市民文化祭文化祭賞・奨励賞

工芸部門

奨励賞

しら
「冬の調べ」 (フラワーデザイン)

田中 恵子 (東光寺町)



(推薦理由)

猛暑の長い夏、あっという間の短い秋を生きぬいた小さな花たち、訪れる春を待ちながら・・・健気に咲いています。

文化祭賞

しっぽうもよう かき
「七宝模様花器」 (籐工芸)

野口 みゑ子 (国母)



(推薦理由)

水につけるとやわらかくなる籐の性質を利用し、素編みのかごの上に七宝模様編みを作り、二重かごにし、やわらかな結び模様が浮きあがるように工夫されており、趣のある花器が出来上がっています。

奨励賞

あじさい かご
「紫陽花と籠」 (押し花絵)

久保田 小代子 (酒折町)



(推薦理由)

葉を細かく刻んで丁寧にかごを編みました。アジサイの花は美しく、白いかごがすべての背景をより鮮明に写し出しています。

写真部門

奨励賞

^{いろど}
「彩り」

村松 ^{おさむ}紀 (後屋町)



(推薦理由)

春、縦・横と花咲きで揃った花々。桜の満開という良い時季、花いっぱい、見る人がいつ見ても心休まる画面で良作です。

文化祭賞

^{はなびいろど}
「華火彩る」

小林 ^{ただし}忠 (国母)



(推薦理由)

幻想的な暗いグレーのバックに浮き上がって見える花火、富士、湖面に映る明かりの建物。この画面の良さを盛り上げている湖面に映る花火空に雲を添え、自分で作り上げたような画面。このチャンスを捉えた優れた作品です。

奨励賞

「春の訪れ」

坂本桂子 (山宮町)



(推薦理由)

澄みきった空の青空の下、広い広場では運動する人々。花を画面下に大きく大胆な構図で、画面も無駄なく良い角度からの狙いは立派です。

奨励賞

「洞窟」

内藤幹夫 (高畑)



(推薦理由)

観光地の催し場に行く通路の両側の木々がネオンの飾りでいっぱい。暗い夜空にブルーの色が映えて、夜の撮影ののれもなくシャープの出来で見事です。

美術部門

奨励賞

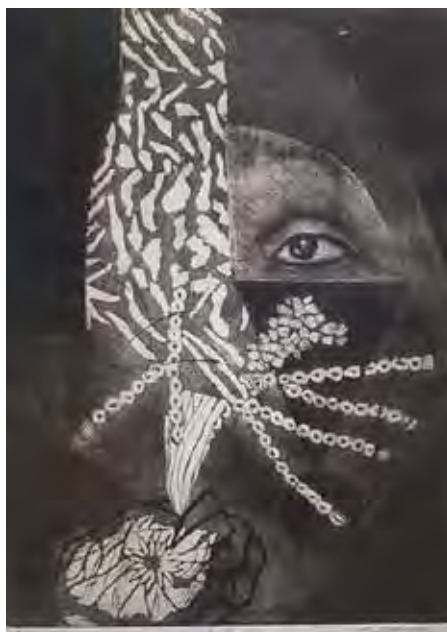
「マーガレットの香り」(日本画)
渡邊正子(徳行)



(推薦理由) 白の花びらと緑の深い色との対比が美しく、花びんの白とあいまって目を引く作品です。緑の葉の間の赤紫の花びらが心良い調和を作っています。奨励賞に値する作品です。

文化祭賞

「ディシャブ」(銅版画)
時田京佳(池田)



(推薦理由)
銅版画作品、題名のディシャブとは、既視感「実際には初めての経験なのに、かつて経験したことがあるように感じる現象」である。始め審査で、この版画作品に出合った時、不思議な迫力のある作品に圧倒されました。文化祭賞に値する作品です。

奨励賞

「水 辺」(水彩画)
佐藤 淑 枝 (太田町)



(推薦理由)
手前の白い花が風景を生かしている。白い花をかくして見ると緑が目だち平凡な絵になるところでした。遠くに小さな滝になって見えますが、その白も遠近感を表わしており良かったです。手前のピンク系の色が見られますが、遠くの方にもピンク系の色が欲しいです。

奨励賞

「日 射」(和紙絵)
石山 晴 子 (千塚)



(推薦理由)
和紙に花びら一枚一枚を貼ってある作品。こまかな白い花も見事に仕上げている。花びんの質感、テーブル等、背景の色合いもよく素晴らしい作品である。

水石部門

奨励賞

はっかいざんせき とおやまほう こ
「八海山石 遠山泡湖」

みねこ
須賀美年子 (北新)



(推薦理由)

色質とも抜群で、川擦れ(かわずれ)も見事で角がとれて、なかなかの秀石です。道具の取り合せも角入(すみいり)の水盤に狂いなく収まりの良い飾りです。

盆栽部門

奨励賞

「ピラカンサス」

高橋節子 (青沼)



(推薦理由)
このピラカンサスは、50年以上育成しており、父親が25年程育てたものを娘さんが引き継いで約25年、親子2代の作品である。花を咲かせ実をつけさせる選定作業が非常に難しく、なかなかオレンジ色の実をつけることができないが、今年は見事に実をつけ見栄えよく表現されている素晴らしい作品である。

文化祭賞

かすみ はな
「霞の花」

あるが
有賀裕治 (山宮町)



(推薦理由)
霞の花は虎斑春蘭として有名である。虎斑を出すためには充分な遮光下で芽を柔らかく伸ばし、梅雨明けに午前中の日光にあて、又元の遮光下に戻す。とても手間がかかる作業を9月中頃まで続けなければ虎斑がきれいに仕上がらない。本

作品は虎斑の切れもよく、美しく段に切れて素晴らしい見栄えのあるものである。全会員一同、文化祭賞に推薦した。

書道部門

文化祭賞

角田嘉子(里吉)



「常道」



(推薦理由) 「常道」(正しき道を歩む。)という文字を力強く刻し、作者の信念と確かな筆致が感じられます。線の太さや彫りに安定感があり、堂々と表現されているよい作品です。

奨励賞

宮川弘美(善光寺)

「林外雪消^{エテ} 山色静^ニ、

窓前春淺^ク 竹聲寒^シ。」

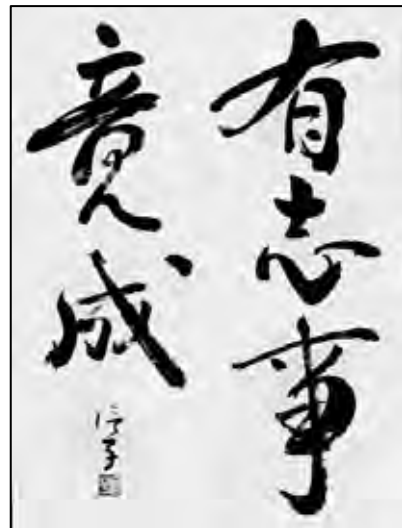


(推薦理由) 半折二分の一に十四文字を三行におさめた作品です。静かな筆のつながりと共に、真中に大きく「静」を流麗におさめました。最後の「寒」と落款でうまくおさまりました。

奨励賞

百瀬信子(青沼)

「有^{レバ}志事竟^ニ成^ル」志あれば事ついに成る



(推薦理由) 「強い志を持った人は必ず物事を成し遂げられる」強い意味を持つたことを穏やかな心で運筆している様子が窺える。紙面における潤(じゆん)、渴筆(かっぴつ)の割合も程よく、無理のない気脈の貫通が心地よい。

奨励賞

谷越玄鳥(国玉町)

「天を衝^つく列車の響^{ひびき}返^さえ返^さる」^{あもんりぞう} 亜門里三の句



(推薦理由) 調和体という誰でも読みやすい書体で書かれた作品です。文字の大小、線の太細の変化、空間の妙ありで、特に縦画の力強さは見事でした。

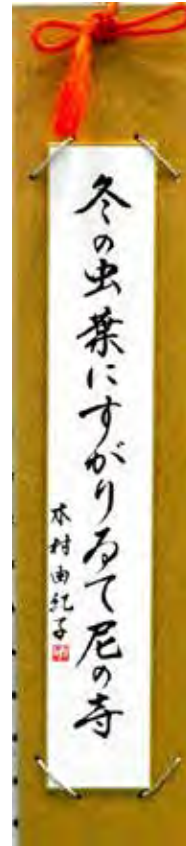
文化祭賞

木村 由紀子 (城東)



(俳句)

冬の虫葉にすがりゐて尼の寺



(推薦理由) 冬の虫とは、冬越しをする虫の総称です。成虫で越冬する蝶にとって、葉は命を繋ぎ止める大切な役割を担っています。葉に命を託す健気で真摯に生きる蝶の姿がありと見えます。その蝶は、静謐な佇まいの尼寺に住処があり、清らかで優しい尼の姿や心根にも庇護されるながら、春の到来とともに、新しい生命の誕生へと結び付けることができるに違いありません。

奨励賞

梅津 勲 (国母)

(俳句) 防空壕出でし記憶や夏の空



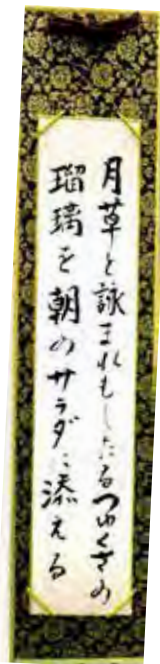
(推薦理由) 激しい日差しが降り注ぐ青空を仰いで、作者は、先の昭和の戦争を思い出しています。戦時中、空襲を避けるために入った防空壕から出るとき、夏空を見上げたのでしよう。夏の日の暑苦しさと空の青が八十年前を思い出させます。

奨励賞

大勝雅子 (大里町)

(短歌) 月草と詠まれもしたるつゆくさの

瑠璃を朝のサラダに添える



(推薦理由) 露草に寄せる親近の思いが一首全体から感じられます。つきくさという和名、花の瑠璃色、摘んで食卓の皿に添え、愛でる心がほのぼのと温かい。若葉は食用とされますが、サラダに添えられたのは花なのです。

奨励賞

寺本加声 (山宮町)

(川柳) 爆音のなきこの国に手を合せ



(推薦理由) 世界中で爆音(ミサイル音など)が聞こえる現在。八十年平和を保っている日本に住んでいることの倅せ感がよく出ている句です。

奨励賞

清水雅子 (塩部)

(川柳) 欠点を認め合うから明日がある



(推薦理由) 長い年月をかけて夫婦間の倅せを築きました。その方法が何かくら良く表現されています。

展示・発表の部

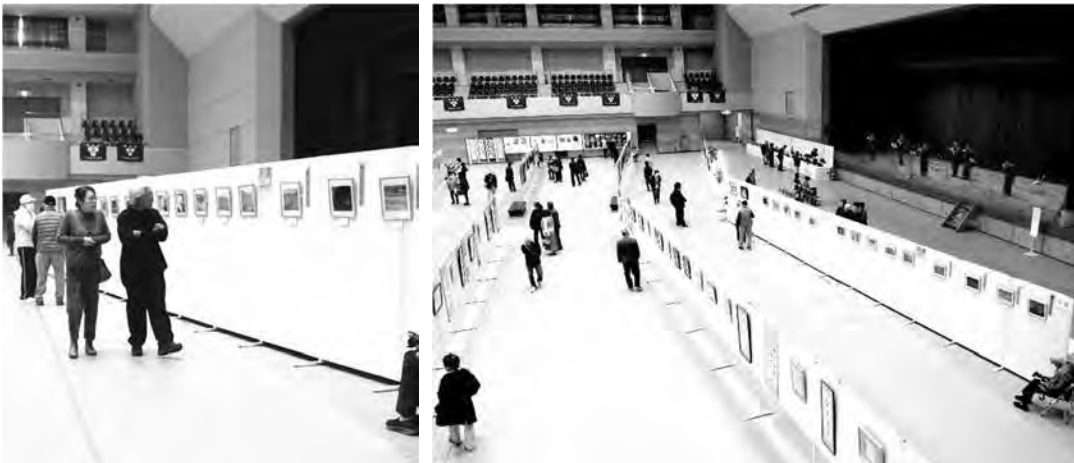
文化祭を思う

写真部門 広瀬 修

第五十一回文化祭、天気の心配もなく、皆待っていた三日間、初日開幕式前、茶道部の綺麗に和服を着飾った人たちより呈茶をいただき、その後、合奏の演奏がありました。「よし」とアリーナで待っていた三日間、好きと努力の展示作品は、全体いつも通り、素晴らしいものでした。

写真展示では、見入る作品に質問などあり、心良く対応しました。撮影では、アリーナを華やかにしている華道は見事な出来栄で頑張りを感しました。展示では、今年も高校生の写真が一番見たくて。前年と同じユニークな視点で被写体に素直に自由に向かって写真を楽しんでる様子や、バラエティーに富んだものもありました。平均的にレベルは高く、私たち先輩も学ぶべき面白い手法があり、次回も是非見せてもらいたいです。今回も、生活の中から努力を重ねた展示作品の数々が素晴らしい展示されて、立派な成果でした。

次回も皆さんと頑張りたいです。



刻字との出会い

書道部門 角田 嘉子

この度は文化祭賞という栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。

この栄誉ある賞を受賞できたのは、私ひとりの力ではなく、これまで私を指導して育ててくださった故長澤草鳩先生、渡辺繡香先生、そして日々支えてくださった書道と刻字の仲間の皆様のお陰と実感しております。

筆で紙に文字を書く書道の世界から、書いた文字を木に刻し色をつけた作品にする刻字の世界へ導いてくださったのが、長年書道のご指導をいただいていた長澤草鳩先生でした。刻字の右も左も分からない私に、ノミの使い方、彫り方、色の付け方などを丁寧に教えてくださいました。先生の楽しい講座を受けられるにつれ刻字に魅了され、その後も刻字教室の渡辺繡香先生の元へ通い、作品を作るのを日々楽しみに続けてまいりました。永年の思いが美しい結晶となり、作品に表わすことができたことに心より幸せを感じます。

今後とも皆さまのお力添えをいただきながら、より一層邁進して参ります。

引き続きご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



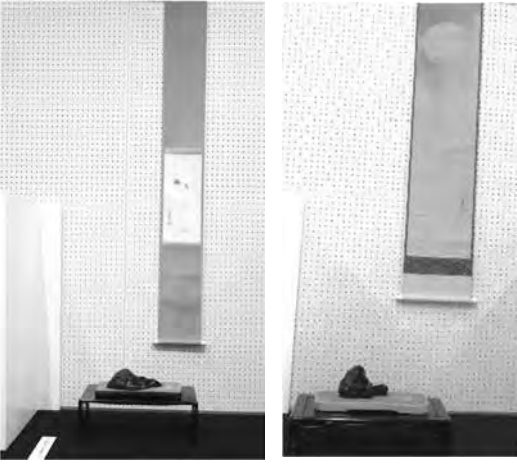
広く交流を

水石部門 大野 浩伸

第五十一回甲府市民文化祭も無事に終了し、関係者の皆さまの尽力に感謝いたします。

水石会では時折、他県の水石展を訪れ鑑賞し石・道具・飾り方を賛否両論しております。

令和七年、文化人口が減少する中、作品が概念から少しズレている気がしています。良く捉えれば現代風ですが。そんな中、先人や愛石者と対話をして多様な作品を観て・触れ・知識を学ぶことがとても大切だと思えます。水石だけではなく他文化とも交流し愉しむことで広く日本文化が持続していくことを心から願っています。



受賞にあたり

美術部門 時田 京佳

この度は、甲府市民文化祭美術部門において文化祭賞を賜り、誠に光栄に存じます。

私は水彩画から美術の道に入り、油絵の表現を経て、現在は銅版画に取り組んでおります。初めて参加させていただいた本文化祭で、このような過分な評価をいただき、身の引き締まる思いでございます。

銅版画は、銅版に一本一本の線を丁寧に刻み、様々な工程を経て、インクをのせて刷り上げる、大変複雑で根気のいる作業です。刷り上がった作品に思いがけない表情が現れる瞬間は、何度経験しても新鮮な喜びがあります。その過程そのものが私にとって心豊かな時間となっております。

長年温かくご指導くださった先生方、制作を支えてくださった仲間たちの存在が、私の創作の大きな支えとなっております。

審査員の皆様、文化祭関係者の皆様に心より御礼申し上げます。また、いつも温かく見守り支えてくれる家族にも深く感謝しております。

今後も学びを深め、少しでも甲府の文化活動に貢献できますよう努



めてまいります。ありがとうございました。

賞をいただいて

文学部門 木村 由紀子

この度は、歴史ある市民文化祭において、文化祭賞という素晴らしい賞をいただき、大変光栄に存じます。

俳句は四十代で始めて、十五年ほどになります。きっかけは、都内に住む友人が、山梨を訪れた時のなげない会話でした。私が「雨の降る匂いがする」というと、「雨に匂いがあるの？」と友人は笑いました。雨が降る前の湿っぽい土の匂いが混ざる匂いは、アスファルトに囲まれて暮らしている友人には、感じる事ができない、尊いものだとその時思いました。

せつかく雄大な山々に囲まれ、季節の移ろいを日々感じる事ができるところに暮らしているのだから、俳句にチャレンジして、もつと自然を感じ取って、深く味わわなければもったいないと思いました。

これからも、一人でも、また仲間とも楽しみながら励んで参ります。この度は誠にありがとうございます。



市民文化祭の展示を

終えて

盆栽部門 田中 真司

今年の文化祭賞には、春蘭「霞の花」が、また、奨励賞には「ピラカンサス」の盆栽が選ばれました。

「霞の花」は虎斑がよく出ており、大変すばらしいと会員一同、文化祭賞に推薦しました。

また、「ピラカンサス」の盆栽は、冬は風霜を避け、日当たりのよいところに置き、さらには、根元にたっぷり灌水し消毒をし、病虫害からも葉を守り、見事な花を咲かせた素晴らしい作品であります。

現在、私たち盆栽部の会員も年々減少傾向にあります。このような素晴らしい作品を展示できる新規会員に一人でも多く入会してもらえるよう、今後も努力していきたいと思っております。



演劇部ステージ

—二〇二五—

演劇部門

わたなべ まさゆき

皆さん！お疲れ様でした。今年の演劇部のステージは秋晴れの中、芸術ホールで十一月三日、無事に開くことができました。あらためてお礼申し上げます。

演劇部ステージは、お話と朗読、演劇、そしてマジックの、三部構成で発表されています。それぞれの持ち味を生かした、楽しい舞台を観客の皆さんと一緒に、楽しめたことが何よりと思っています。

ステージの幕開けを飾ったのは「ものがたり文化の会」の子どもたちです。そのハツラツとした元氣パワーに、舞台の袖にいるスタッフの皆さんも、ビックリしながら拍手を送っていたのがとても印象的でした。

「お話し会」「朗読グループ」の皆さん、お疲れ様でした。お話や朗読の楽しさは「想像する楽しさ」に繋がります。声と言葉だけでお話や物語を伝える力、とても羨ましく感じています。

創立七十周年を迎えた「劇団やまなみ」の舞台は、短い持ち時間の中で気骨あるお芝居を見せてくれました。



た。演じる役者さんたちの、一人一人の熱量が客席にそのまま伝わって来る舞台だったと思います。

演劇部ステージのラストは「山梨マジッククラブ」の、わくわくマジックショーが恒例となっています。

ハラハラドキドキのパフォーマンスが、今年も客席を大いに沸かしてくれました。

そして、二〇二五—演劇部ステージに、お越しいただいた皆さん、ありがとうございました。

皆さんの、暖かい拍手の中で無事打ち上げることができました。来年も皆様のご声援をいただきたく、あらためてお願い申し上げます。

市民文化祭に参加して

合唱部門

勸学水曜コーラス・

フレンズ

今年の文化祭は、トップバッターでの発表でした。緊張しながら舞台袖で声を潜めて開会式の様子を聞いていました。

いよいよステージ入場。最初の曲「戦争を知らない子供たち」は、途中手拍子に合わせて歌うので、楽譜がありません。何度も歌詞を読んで暗譜しました。二曲目は「ふるさは今もかわらず」です。ソロと合唱に分かれている楽譜を、先生がソプラノ、アルトそれぞれがメロディーを歌う部分を受け持つように工夫してくださいました。最初は、楽譜を追っていくことが難しかったのですが、歌詞を味わいながら歌いました。

フレンズは、「楽しくつどい、楽しく歌う」を合言葉に、今年の二月に結成十周年を迎えました。甲府市文化協会合唱部に加え、文化祭に参加するようになり発表の場があることが、活動の励みになっています。文化祭も終了した今、来年の文化祭を目指して新しい曲に取り組み始めているところです。



いつまでも現役

合奏部門 遠山 忍

今年の文化祭合奏部公演は、二十一人団体の参加数となり、かつてない規模での催行となりました。

開演時間を早め、進行に遅延がないよう、綿密なタイムテーブルを作り運営した結果、ほぼ予定通り遂行でき安堵しているところです。

過去最高の参加者三五二人は二十代から九十歳代まで幅広く、どのメンバーも、例外なく澆漉として輝いて見えます。

とりわけステージに豊饒(かくしやく)として立つ高齢者の姿は、「まだまだ現役だぞ」と言わんばかりの強いメッセージを発しているようです。

日ごろから、仲間がいるから、行事があるから、自身の心を制御したり、奮起させたりしているのでしょう。そして、そんな生活の起伏が、彼らの現役意識を支えている気がします。

そういう私自身も、立派に高齢に達しています。サークル活動は、自身を磨き、抗(あらが)えない老化に寄り沿う「脳活の場」だと言いきかせ、今日も楽器を背負って家を出るのです。



文化祭吟剣詩舞道発表会を終えて

吟剣詩舞道部門 風間 岳勲

あんなに暑さが厳しかった九月、十月も過ぎ、めつきり秋らしくなつた十一月十五日の七五三をお祝いする日に、甲府市民文化祭の吟剣詩舞道発表会が、リッチダイヤモンド総合市民会館芸術ホールで午後二時三十分が開演しました。

九つの会派と四つの地区の七十四名で五十二番組を発表しました。発表の前半に多数の吟者による合吟が行われました。流石に稽古がしっかりされていると見えまして、吟声が揃っておりまして。

中盤は独吟で、それぞれの個性のある吟を聞かせていただきました。最後の五十二番は、全会派九つの会員が力を合わせ、秋にふさわしい「構成吟・月を詠む」と題し、文字どおり秋の美しき月と人の織り成す光景を表現して喝采をいただきました。多く稽古に時間をさき、切磋琢磨した甲斐があったと喜びました。

片付けを済ませ、反省会の折、良き大会でしたが、欲を言えば音響がスムーズに出なかったところがあ

つたと音響係からの指摘があり、次の大会には最重要項目として、より良い大会とすることを約束し、午後五時、あたりが薄暗くなってまいりましたので、気を付けて帰ることを言い合せて散会しました。



第五十一回

甲府市民文化祭大茶会

茶道部門 島田 須仙

十一月になり、急な冷え込みに木々も色づいてまいりました。三日、リッチダイヤモンド総合市民会館にて、裏千家、表千家、江戸千家、大日本茶道学会の四流派が一同に会して大茶会が行われました。

茶席の窓から見える景色も晴天に恵まれて、紅葉が一層美しく、お席の秋の装いのお道具に反映しておりました。

今年もお席を担当されました席主の方々もそれぞれに工夫を凝らした席作りにお客様も楽しんでおられた様子でございました。

今年は当日茶券を求めていただいた方も多く、例年以上の方々が入席してくださいました。

抹茶の価格も値上りし、予約しないと手に入らないような昨今となり、健康にも良いと世界的に、抹茶ブームとなっておりますが、この抹茶を通しての、日本伝統文化は茶道のみでございます。

広く市民の皆様が、お茶を嗜み、楽しんで文化祭に足を運んでくださることは、文化向上につながり、継承されていくことと思います。

また、この度、樋口市長様が四流派、皆、入席くださいましたこと、茶会に当たりまして、ご苦労くださいました関係各位の方々に感謝申し上げます。



つなごろう

つなげていこう 文化の和

第五十一回市民文化祭を

終えて

能楽部門 佐藤 眞弓

最近では地球温暖化が心配され、異常気象が日常的になり、何かと心配な様相が周りに満ち満ちていきます。豊かな自然に恵まれた日本では、その中で諸々がはぐくまれ、育つてきました。豊かな自然を愛で、楽しむ中で、文化は育ち、継続されてきました。能楽もその中にありました。

四季の移ろいのなかで春夏秋冬を過ごしてきました。そのような流れの中での春夏秋冬の姿を、耳になじみのある謡曲を選び、独吟で発表しました。

春..	鞍馬天狗	野村直高
夏..	鶺鴒	佐藤眞弓
秋..	松虫	新津久子
	羽衣	田辺典子
冬..	鉢木	眞木敏夫
高砂		全員

今回の文化祭のスローガン「つなごろう つなげていこう 文化の和」、甲府市内の大学に能楽を知ろう、学ぼうという研究会が幾

つかあると聞き、まさにその中であって頑張ってゆきたいと少人数の会員ながら、日々の稽古に励んでいる能楽部です。



市民文化祭を終えて

舞踊部門 飯野 妙子

今年の文化祭では、嬉しいことが三つありました。一つは専門部に加えて、地区文化協会や一般の部の方の参加が増えたことです。そのため曲数も増えて、異なる流派や分野の舞を楽しむことができました。

二つめは増えたことにより、普段はなかなか会う機会のない人たちにお会いできたことです。ある九十年代の方は、同じく九十年代の方と久しぶりにお会いできて「頑張ろう」と声を掛け合っていました。私も思いがけず、昔むかしの知り合いにお会いし、旧知を深めることができました。

三つめはフィナーレの「甲州よつちやばれ踊り」で盛り上がる事ができたことです。普段は交流することはありませんので、ひと時気持ちを一つにして、皆で踊る楽しさを味わうことができました。

反省すべき点多々ありましたが、皆様のご協力のおかげで、大過なく楽しい文化祭ができたと思います。踊ってくださいました方、観にきてくださいました方々に心から感謝しております。



第五十一回甲府市民文化祭に参加して

邦楽部門 塩島 正文

令和七年十一月十九日、邦楽部の演奏会が開催されました。箏、三味線、尺八の演奏曲が十曲披露されました。大人から小中学生、高校生まで幅広い年代の方々の演奏でした。皆さんの日ごろの練習の成果が、十分に発揮されていたように思います。

ジブリ映画の曲のお箏の演奏や、千鳥の曲などの古典曲、江戸末期の長唄全盛期のころの曲など、各楽器の美しい音色が鑑賞できました。私も尺八の演奏を仲間と行つたのですが、舞台上上がりライトを浴びると、やはり緊張してしまいます。練習の七、八割の演奏ができれば、上出来といったところでしょうか。

小中学生、高校生の演奏は、皆一生懸命に演奏に集中していて、感動しました。来場された親御さまや祖父母さまは、子どもたちの成長にやはり感動されたのではないのでしょうか。若い力は是非、長く和楽器演奏を継続してほしいと思います。進学しても三曲や長唄など邦楽のサークルを探して、門戸を

たいてみてください。 「継続こそ（生きる）力なり」長い人生を和楽器とともに彩ってくれると思います。



二〇二五 文化祭 民謡部門発表会から

民謡部門 相川 宝楽

会員の皆様お疲れ様でした。

十一月十五日の土曜日十時から、私達民謡部の発表会が行われました。他の部門でも問題があるうかと思いますが、何にしても観客数が少なく、今後の大きな課題とと思っています。

そんな中で私たち民謡部が、全員で取り組んで発表した曲目に、会場の皆様が何らかの形で参加できるようにと、良く知っている曲で手拍子や歌が口ずさめるようにと「甲府市の歌」「武田節」「甲州ソーズラ音頭」「甲州よっちゃばれ踊り」をプログラムに組み込んでみました。誰でも知っている曲ですし調子も良い曲ですので、皆さんにも手伝っていただき、大変好評でした。

そんな甲斐もあって、伊勢地区の生き生きサロンの集まりで地元山梨のすべてが歌い込んであり、その上調子良く乗りも良い「甲州ソーズラ音頭」を皆で唄うようにしたいと提案がありました。

こんなことから民謡が広まれば良いなと思っています。

早速十一月二十七日に第一回が



行われることになりましたので、大変楽しみです。今後も続けて行き、ますます歌の和が広がるよう願っています。

来年もレパートリーを広げて、会場の皆様とも共に楽しめるよう考え練習に取り組んで参りたいと思っています。

第五十一回甲府市民 文化祭を終えて

華道部門 小林 明美

今年度の出瓶者は、専門部十流派三十名、地区文協五地区十一名でした。

猛暑の夏がやっと終わり、木々が色づき草花が秋の気配をおびてきた季節、庭や花屋さんでお気に入りの花を見つけ、思い思いに生けられた作品が見事に並びました。会場準備では、前々日に業者の方に背面の布やビニールをきれいに貼っていただき、私たちも前日に展示台の腰布を手際よく丁寧に貼り、広々きれいなスペースを作ることができました。出瓶者からは、ゆつたりとしたスペースで思い切った作品を生けることができた、花を生ける喜びの声もありました。花材表を席札の前に並べたことで、花の名前が確認しやすくなり、多くのお客さまが花と花材表を見比べながら、ひとつひとつの作品の前でゆつくりと足をとめて観てくださいました。

「お花の展示が文化祭をより華やかにしていますね」と嬉しい言葉をいただきました。私たちは花を通じ文化祭を盛り上げ、甲府市



の文化の継承に関わっていくことができる幸せを感じ、あらためて花を楽しむ人の輪を広げ、華道の魅力を伝えていきたいと思いました。

ご協力いただきましたみなさま、本当にありがとうございました。

受賞の喜び

工芸部門 野口 みゑ子

第五十一回甲府市民文化祭が「つながろう つなげていこう 文化の和」をテーマに開催されました。

この度、文化祭賞という輝かしい賞を賜り身に余る光栄と思えます。日ごろよりご指導をしてくださる保坂先生はじめ、一緒に習っている皆様と家族のお陰と感謝しています。

出品した『七宝模様花器』は下地を素編み、その上に七宝模様を掛けました。上下左右と関わり合わせる模様のため引き攣れて整わず、再度編み直しようやく仕上がった時の安堵と達成感を今でも忘れません。これからも今回の受賞を励みに、創作意欲を維持し、作品作りをしていきます。本当にありがとうございます。



青少年作品展を終えて

青少年作品部門 河住 洋

青少年作品展は、文化活動を担う次世代の育成を目指して開催される甲府市民文化祭の一環として、青少年育成甲府市民会議が募集した「家庭の日」(毎月第一日曜日)と「青少年を育む日」(毎月第三日曜日)の啓発作品の展示を通して参加させていただいております。

本年度は十一月八日・九日に総合市民会館内の二階展示室で開催し、甲府市内の小・中学校や各地区から応募いただいた作文、ポスター、標語の作品三三八五点の中から、一三九点の入賞作品を展示いたしました。

入賞された皆さんとそのご家族を中心に、二日間で約四七〇人の方が来場され、作品一つ一つを丁寧に鑑賞されていました。また、三世代でのご来場も多く、入賞作品を前にして一緒に写真を撮ったり、うれしそうに家族に説明したりと、笑顔いっぱいの中で、展示室は温かい雰囲気になっていました。

この青少年作品展が、文化の継承とともに、明るい家庭づくりや青少年の健全育成の一助となるこ



とを願っております。

甲府市民文化祭 将棋大会を終えて

新堀 亨

令和七年十一月八日(土)に第二回甲府市文化協会会長杯将棋大会が行われました。今年は、有段者の部、上級者の部、初級者の部、初心者の部の四部門に、昨年を上回る六十五人が出場しました。付き添いの父兄の方々を含めると八十名以上の方が来場され、会場は熱気にあふれていました。

初心者の部は総当たり戦、その他の部は予選リーグの後に決勝トーナメント方式で行われました。各部門には子どもから大人まで幅広い年齢層の方々が熱戦を繰り広げました。中でも、初心者の部では、将棋の勝敗に関わらず、和気あいあいとした雰囲気に対局を楽しんでいた様子がとても印象的でした。

これからも、より多くの方に将棋を一生の趣味として楽しんでいただけるよう取り組んでいきたいと思えます。

各部の入賞者の方は次のとおりです。(敬称略)

▽有段者の部(優勝)杉田晋作、(準優勝)横山博之、(第三位)茂原正幸

▽上級者の部(優勝)甘利健二、(準優勝)高橋一雄、(第三位)小辻圭司
▽初級者の部(優勝)刈田丈弘、(準優勝)吉田惇彦、(第三位)遠藤真紀子
▽初心者の部(優勝)中込千里、(準優勝)池田史門、(第三位)伊藤皓介



アロハの心で

地区文協の部(フラダンス) 立川 美智子

甲府市民文化祭発表の部に、地区文協の部として初の試みで参加させていただき誠にありがとうございました。

フラダンスの愛好者は、年々増えつつあります。公民館や悠遊館では、三才の子どもから高齢者まで楽しみながらレッスンに励んでおります。

今回、総合市民会館の芸術ホールで一同が「アロハの心」で一つになって、一生懸命に練習に励み、発表できたことは、格別の喜びでした。

三十曲、二一〇名のメンバーが集まり、大勢の観客の応援もあり大変盛り上がりました。

フラダンスは、笑顔がモットーです。会場ではハワイのさわやかな風が吹いておりました。来年の甲府市民文化祭にも参加できるようにこれからも練習に励んでいきたいと思えます。



「夢中」の連鎖に 期待して

高校生・大学生の部 事務局

次世代部門として「高校生・大学生の部」がスタートしたのが二年前。今年度は、展示・発表ともに、「高校生・大学生の部」として開催させていただきました。山の都アリーナに展示された写真・絵画・書道作品、芸術ホールで舞台いっぱい披露されたダンス・演劇・合奏・応援演舞：組方や表現はそれぞれでも、思い描いた作品・舞台を実現しようとする姿に共通する思いを感じました。

あることに夢中になり、他のことを忘れるほどに集中している状態を、夢中体験ともフロー状態とも呼ぶそうですが、こうした感覚を体験することは、自己効力感を高めるために大切だそうです。個人的に、学生時代は夢中になれるものを探していたように思いますが、山の都アリーナや芸術ホールでの舞台には、今、夢中になれるものに出会えた幸せな人たちがいて、拍手を送る私たちにたくさんさんの刺激を与えてくれました。

でも、この「夢中」に年齢制限はありません。市民文化祭をきっかけ

に、世代を超えた「夢中」の連鎖が生まれたら…こんなうれしいことはありません。

最後に、今年度におきまして、高校・大学の先生方、学生課の皆様には多大なるご協力をいただきました。この場をお借りし、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



つながろう つなげていこう 文化の和

第51回 甲府市民文化祭

とき
2025年11月1日(土)~
11月23日(日・祝)

ところ
リッチダイヤモンド総合市民会館
遊 電 公 民 館

主催 甲府市民文化協会
主幹 甲府市民文化祭実行委員会
協賛 甲府市・甲府市教育委員会



開幕式

令和七年十一月一日
山の都アリーナ入口にて

開幕式は、茶道部による呈茶、合奏部・フルート友の会による演奏でスタートしました。



表彰式・受賞作品展

☆表彰式
令和七年十一月二十七日
甲府市役所四階大会議室にて

☆受賞作品展
十一月二十五日~二十七日
甲府市役所一階市民活動室にて



事務局から

令和七年度
定期総会

五月二十六日、定期総会を開催しました。

新旧年度の予算・決算・事業計画・事業報告・新役員が承認されるとともに、長年本協会が発展に寄与された皆様のご功績に対し、感謝状が贈呈されました。新役員は、最終頁に記載のとおりです。

市民文化団体、各地区文化協会が気持ちをひとつに、行政との連携をさらに強化しながら、本市の郷土文化の振興と芸術文化水準の向上、会員相互の交流・協調を図っていくことが確認されました。

日時
令和七年五月二十六日(月)
午後二時三十分～

会場
リッチダイヤモンド
総合市民会館
芸術ホール

アトラクション
午後二時三十分～
舞踊部
出席者 三七七名



文化講演会

テーマ「甲府での生活・井伏鱒二・太宰治」

甲府市文化協会では、会員はもとより市民の文化意識の高揚を図り、文化芸術への認識をより深め、今後の文化活動の一助としていただく文化講演会を、毎年一月に実施しています。

今年度は、甲府ゆかりの文豪、井伏鱒二と太宰治の作品に影響を与えた甲府での生活を、手紙や写真を交えてお話しいただきました。執筆活動の舞台裏、日々の営みを垣間見たことで、これまでとは異なる視点で作品を愉しむことができそうです。

講師
保坂 雅子氏

山梨県立文学館 学芸幹

開催日時

令和八年一月三十日(金)
午後一時三十分～午後三時

会場

リッチダイヤモンド

総合市民会館

芸術ホール

アトラクション

舞踊部

出席者

二一〇名



令和八年度

甲府市文化協会

行事カレンダー

甲府市民文化祭

十月三十一日(土)～

十一月二十二日(日)

予定

文化講演会

令和九年一月中旬

甲府市文化協会の

情報はこちらから

◎甲府市文化協会

ホームページ

<https://kofu-bunkyo.com>



◎甲府市文化協会

フェイスブック



甲府市文化協会の最新情報や画像を配信しています。スマートフォンで右のQRコードを読み込んで、ぜひご覧ください。

令和七年度 甲府市文化協会 顧問・役員氏名

会長	樋口 雄一	理事(地区文化協会)	大里 高橋 要
顧問	宮島 雅展	顧問	石田 吉澤 一
筆頭副会長(専門部)	鶴田 一杏	千代田 畑 久夫	末野 照久
吟剣詩舞道		里垣 廣映 太子	安部 龍夫
副会長(専門部)	矢崎 吼隆	千川 日向 靖夫	小川 崎道
工芸	奥山 幾代子	相川 坂 亮	藤野 勝人
舞踊	中澤 徳子	国母 小 子	穴切 藤 亮
副会長(地区文協)		山城 小 子	玉諸 勝 亮
伊勢・住吉 森 田 弘		池田 松 澤 二	東原 野 五
副会長(生涯学習課)		湯野 五郎 知	朝日 服 尚 隆
理事(専門部)	西村 克仁	相生 雨宮 秀茂	春日 清宮 明彦
華道	小林 明美	甲運 寺田 義明	大野 青山 秀彦
美術	松七五三美和	新田 篠原 敏朗	北新 大久保 威徳
文芸	河野 一 郎	中道 久保 威徳	理事(生涯学習課)
盆裁	田中 真司	監事	榎田 和子
演劇	岡田 政幸	専門部	笠井 公巳
合唱	遠山 恭子	地区文化協会	丸山 文雄
吟剣詩舞道	風間 岳 勲	教育総長	近藤 稔
茶道	石戸 宗美	事務局長	大根 塚 友美
能楽	佐藤 眞弓	事務員	大根 塚 友美
邦楽	鈴木 妙子		
民謡	相川 宝勢		
洋舞	深沢 由美		

甲府市文化協会に 参加しませんか!!

本協会は、市民文化団体、各地区文化協会の連絡協調を保ち、自主的な文化活動を助長し、郷土文化の振興と甲府市の文化水準の向上を図ることを目的としています。現在は、十八専門部と、二十七地区文化協会が、学習と研鑽を積み重ね活発に活動しています。

専門部は、各分野に精通した同じ目的をもった団体(者)が集まり、自主的な芸術(創造)文化活動を継続して行っています。

地区文化協会は、市内の小学校地区に設立され、生活文化活動を通じて、住民相互の親睦と交流を図るとともに、学校と連携・結びつきを深め、地域の活性化を図っています。文化活動に興味のある方、学習したい方、一緒に活動しませんか。

お問い合わせ先

甲府市文化協会事務局

Tel 055(223)7329

Fax 055(235)5648

info@kofu-bunkyo.com

あとがき

甲府市文化協会専門部はじめ、各地区文化協会の方々には、並々ならぬ努力の様子が投稿の中にかがいがい知ることができ、感動と共感の高鳴りを覚える。同時に、共通の悩みでもある高齢化による部活動の空洞化を埋める手段を如何にするか、真剣に考えねばならぬ局面を迎えていると痛感している。

突破口を見出すためには、専門部、各地区文化協会の方々と、この問題に関しての合同意見交換会を設け、今後の文化活動の一助とすることが必要ではないだろうか。常に思うことは、各地区文化協会が自分の枠の中の活動ではなく、自分の協会にないもの、また自分の協会の得意とするものを発信することにより、相互の文化活動の向上にプラスになればと思うが如何なものだろうか。

更に、各地区文化協会の文化祭の日程表を掲載するの一手かもしれない。

編集委員長 渡辺 優

【表紙の題字】

書道部長 矢崎美咲

【表紙の写真説明】

「金櫻神社」

昇仙峽を登りつめた、富士山を仰ぐ金峰山の下に、一五〇〇年前に建立されました。金峰山信仰の中心として繁栄し、昇仙峽と共に全国の人々の入山で賑わっています。

写真部長 広瀬 修

【編集委員会】

- 委員長 渡辺 優
 - 副委員長 河野 一郎
 - 委員 矢崎 吼隆
 - 同 奥山 幾代子
 - 同 森田 芳弘
 - 同 松澤 榮二
 - 同 広瀬 修
 - 同 矢崎 美咲
- (順不同)

お手元へ配布された機関誌は、大勢の方にご覧いただけするように、会員・友人知人等へお配りください。

令和八年三月一日発行

